週刊 YEAR BOOK

1953
昭和28年

日録20世紀

11|25
平成9年11月25日発行
(毎週1回発行)第1巻第38号
¥560
講談社

銃剣で土地を強奪された
「軍事基地・沖縄」

伊東絹子、ミス・ユニバース
世界第3位!

ヒラリーとテンジン、
最高峰エベレスト征服

“テレビと力道山”時代始まる!

受信契約数866件でNHK本放送開始
“テレビと力道山”時代が始まった!

▲日本テレビが設置した街頭テレビに群がる人々。開局当初は、新橋駅前など都内、近郊53ヵ所に設置された。　読売新聞社

昭和二八年二月、日本初のテレビ本放送が、NHK東京放送局によって開始された。同年八月には初の民放、日本テレビも開局。テレビ時代の幕開けである。そのテレビが生んだ初めてのヒーローが、プロレスの力道山だった。人々は街頭テレビに群がり、その活躍に熱狂した。

本放送は始まったが“高嶺の花”のテレビ

「JOAK－TV　こちらはNHK東京テレビジョンであります」

――昭和二八年二月一日午後二時、志村正順アナウンサー（三九）の言葉とともに、日本のテレビ放送の幕が開いた。本邦初のテレビ局、NHK東京放送局の本放送開始の瞬間である。開局式では、古垣鉄郎NHK会長の挨拶、緒方竹虎副総理の祝辞に続いて中継された尾上梅幸ら菊五郎劇団の「道行初音旅」が、事実上の最初の番組となった。

NHK開局時の受信契約数はわずか八六六件。大卒サラリーマンの初任給が七〇〇〇～八〇〇〇円だった時代に、米国製テレビ受像機の値段は一八万円前後もしたわけだから、庶民にとってテレビは“高嶺の花”であった。

黎明期のテレビ放送の前途多難ぶりを象徴するように、初の民放、日本テレビ放送網が開局した同年八月二八日、開局式典に参加した吉田茂首相は正力松太郎社長（六八）にこんな祝辞を送っている。

「数年前、マッカーサー元帥に日本でもテレビをやりたいと話したところ、あまりにも機械が高すぎて日本の生活程度に

▶“英雄”力道山の誕生を告げた、29年2月、シャープ兄弟との蔵前国技館3連戦。NHK、日本テレビがともに実況中継した。　毎日新聞社

◎表紙　プロレスの王者・力道山の勇姿。176センチ、110キロと、レスラーとしてはむしろ小柄だった。　百田義浩／マルベル堂提供

▲"メキシコの巨象"ジェス・オルテガに、"伝家の宝刀"空手チョップを見舞う力道山。悪役・外国人レスラーを倒す"正義の一撃"が、多くの日本人を勇気づけた。昭和38年2月。　木村盛綱

あわないと言われた。（だから）正力君からテレビをやるというお話があったときは、とうてい正気の沙汰ではあるまいとまで申し上げたのであります」

正力には周囲の杞憂を打開する"秘策"があった。日本人をテレビにクギ付けにした街頭テレビの設置である。駅や商店街、銭湯など人々が集まる場所にテレビをおいて、無料で視聴させたのだった。

ニュースや映画のほかにも、巨人対阪神戦やプロボクシングなど、当初からスポーツ中継は街頭テレビの人気プログラムだった。特に一〇月二七日に行われた世界フライ級タイトルマッチ、白井義男対テリー・アレン戦ではテレビめあてに品川駅ホームに群衆が膨れ上がり、電車が立ち往生するハプニングが起きる。

こうして、ボクシングの世界戦などのビッグイベントが行われればそこそこの人気を博していたテレビだったが、"あの男"の登場が、それを定番の娯楽へと押し上げ、その後の本格的なテレビ時代到来を呼び起こすことになる。

街頭テレビの英雄 力道山の"秘密"

「行け、力道山！　やっちまえ！」

黒のロングタイツをはいた東洋人が、一九〇センチの白人に飛びかかり、水平チョップをたたきこむたびに、蔵前国技館に衝撃音が響き渡った。大相撲の関脇からプロレスラーに転身した力道山の手刀に、白人レスラーがくなくなと崩れ落ちる。

「空手チョップだ。やった。やったぞ！」

テレビ本放送開始から約一年後の昭和二九年二月一九日、戦後日本に新しいヒーロー、力道山（二九）が誕生した。↖

受信契約数866件でNHK本放送開始

"テレビと力道山"時代が始まった！

世界タッグ王者のシャープ兄弟を迎えて、初の本格的なプロレス国際試合が行われたのである。この蔵前国技館三連戦では、館内も初日こそ空席があったが、二日目からは、一万二〇〇〇人以上の観衆が詰めかけ、切符を持たない客がなだれこんで怪我人まで出た。

連日、約二万人の群衆が集まった新橋駅西口広場をはじめ、日本テレビが設置した上野公園などの街頭テレビにも人、人、人が結集して悲鳴にも似た歓声が渦巻き、「プロレス受像中」のビラを出した喫茶店はどこも立ち見客で立錐の余地もなかった。この衝撃的な"プロレス旋風"によって設置された街頭テレビは、全国で二七八ヵ所にのぼった。

日本テレビの元ディレクターで、プロレス中継にたずさわった松根光雄氏は当時の群衆の熱狂ぶりについて、次のように振り返る。

「街頭テレビ周辺の混雑がすごくて、放送中にアナウンサーから注意を呼びかけることもしばしばでした。『上野公園で木に登ってテレビを見ている方、危ないので降りてください』とかね（笑）。試合中途で中継が終わった日などは、抗議の電話がガンガン鳴ったものでしたよ」

三二年に力道山が米国人の世界チャンピオン、ルー・テーズと戦った試合では、八七パーセントという驚異的な視聴率を記録。人気に呼応するかのように、テレビの受信契約数はふえ続け、三〇年に一〇万件だった契約数は、三三年には一〇〇万件を突破した。ブラウン管の中で、戦勝国の白人を打ち負かす「日本人・力道山」の姿に、多くの人が、敗戦でズタズタにされた日本人の誇りを回復したのである。

しかし、それは"物語"にすぎなかった。「『長崎県大村市出身の日本人。本名・百田光浩』――人々が信じ切っていたこの力道山のプロフィールは真実ではなかった」と、著書の『深層海流の男・力道山』で力道山の出生を明らかにした東海女子大学の牛島秀彦教授は話す。

「力道山が朝鮮人であることは大村市民なら誰でも知っていました。報道されなかったのは、マスコミが力道山を神聖化し、出自を明らかにしなかったからでしょう。力道山本人も"日本の英雄"ともてはやされたため、朝鮮人であることを隠し通すしかなかったのだと思います」

昭和三八年、NHKの受信契約数が一〇〇〇万件を突破した翌年、力道山は暴力団員に刺された傷がもとで死亡した。"テレビの伝道師"として、日本人・百田光浩を演じ続けることに疲れたかのような、あまりにも突然の死だった。

その出自がどうであれ、日本にプロレスを根づかせ、テレビの普及に貢献した彼の軌跡が消えることはない。「あの熱戦をわが家で……」という日本人の願いが、国内メーカーによるテレビ生産とコストダウン競争を加速させ、本格的なテレビ時代が到来したのである。

渡部雄吉

▶松下電器のテレビカー。全国を巡回し、放映・実演を行い人気を呼んだ。二八年五月、大阪で。

力道山名勝負物語

●昭和29年2月19日

力道山・木村政彦組対シャープ兄弟戦

力道山の空手チョップとマイク（弟）の反則攻撃が炸裂し、時間切れの引き分けに。新橋駅西口広場の街頭テレビには群衆2万人が詰めかけた。

●昭和32年10月7日

力道山対ルー・テーズ戦

伝説技のバックドロップをかける"鉄人"テーズとそれを阻止する力道山の攻防に、後楽園球場を埋めた約3万人が一喜一憂した。結果は時間切れの引き分け。翌年8月には力道山がテーズを破り、インターナショナル・ヘビー級チャンピオンに。

◀NWA世界王者、"鉄人"ルー・テーズ。初来日の昭和三二年には、世界一周で無敗を記録した。

共同通信社

●昭和37年4月23日

力道山対フレッド・ブラッシー戦

力道山がブラッシーから奪ったWWAヘビー級チャンピオンベルトの奪還戦。力道山が勝ったが、"銀髪鬼"ブラッシーの噛みつき攻撃による流血戦にテレビ観戦中の老人がショック死する騒ぎに。

◀"銀髪鬼"フレッド・ブラッシー。"歯"をやすりでといで見せ、悪役ぶりを強烈にアピールした。

日刊スポーツ（下も）

●昭和38年5月24日

力道山対ザ・デストロイヤー戦

デストロイヤーの「4の字固め」に力道山が大怪我を負った。両者の意識が朦朧とした中でレフリー・ストップとなった、プロレス史に残る名勝負。

◀"白覆面の魔王"ザ・デストロイヤー。力道山の最後の試合の相手でもあった。

「乞食は恥ずかしい、しかし乞食にさせた米軍はもっと恥ずかしい」と島ぐるみ闘争に

〝銃剣〟と〝ブルドーザー〟で土地強奪！「軍事基地・沖縄」はこうして作られた

▶昭和28年6月13日、那覇飛行場の下水溝建設工事。26年からの3年間で沖縄の軍用地は37パーセントも増加、基地の強化が進んだ。
アメリカ国立公文書館／沖縄県公文書館提供（2点とも）

激化する冷戦の中で、米軍は沖縄を恒久の〝不沈基地〟とする方針を打ち出した。そのためなりふり構わないむき出しの暴力で土地を強奪し、はてはガソリンをまき農地を焼き尽くした。逮捕され、軍事裁判で実刑を科されたもの、栄養失調で死ぬもの……。想像を絶する暴挙が横行する中、沖縄人（うちなんちゅう）は島ぐるみの抵抗を試みた。

〝だまし討ち〟で沖縄をアメリカの恒久的砦に

国内唯一の地上戦で過酷な被害を受けた沖縄の民衆にとって、戦後三、四年の生活は住む家にも、食糧にもこと欠く苦しい状況だった。がそれは反面、つかの間の〝平和の時期〟でもあった。しかし、冷戦の激化は、アメリカに沖縄の戦略的価値を再認識させ、「太平洋における米国防上の恒久的砦」をめざす基地の拡大強化が開始されたのである。

昭和二八年四月三日、沖縄を統治する米民政府は布令一〇九号（土地収用令）を発した。そのわずか一週間後、真和志村（現・那覇市）の四集落に収用が通告され、翌日早朝には、武装米兵とブルドーザーが、有無を言わせず農地を破壊して去った。

同様な土地強奪は、読谷でも、宜野湾でも行われた。そして、沖縄本島の北に位置する伊江島の伊江村真謝部落にも、米軍は押しかけた。土地を守る戦いの中心人物で、九四歳の今も現役で平和を訴え続ける阿波根昌鴻氏の記憶はこうだ。

「昭和二八年七月二四日、米民政府の土地係官という日系二世が真謝に現れ、↖

土地を調査しました。当時、私たちはアメリカを信用していたので、島を案内しました。帰り際、彼は後で日当を支払うからと言って英文の書類に捺印してくれと言いました。疑いもせず私たちはハンこを押しましたが、それは立ち退きに同意する書類だと後からわかりました」

こうしただまし討ちも平気で行われたのである。伊佐浜（現・宜野湾市）の土地強奪の端緒も、「水田は蚊が発生し、脳炎を媒介するから」という子どもだましのような理由で始まったのだ。

農民の怒りが爆発「島ぐるみ闘争」へ

九月二四日、米軍人が伊江島を訪れ、民家約五〇〇万平方㍍の土地の接収と、民家一五二戸の立ち退きを通告する。

真謝の人々に衝撃が走った。「農民が土地から離れたら、もう死があるのみだ」という声が口々にあがった。人々は会議を重ね、立法院に、行政府に、米軍に、立ち退きの撤回を嘆願してまわった。その方法も、反米的にならず、道理を尽くすという、独自に作った「陳情規定」にのっとったものだった。だが、立ち退き計画は一五戸に縮小されたものの、全面中止にならないまま、時がすぎていった。

阿波根は「聖書に『剣をとるもの剣に滅ぶ』と書かれています。米軍が、今、沖縄でやっていることを見るとアメリカが滅びるような気がします」と迫ったこともある。これには、対応した米軍少佐も「私個人ではそう思っても、命令を実行することしかできない下級官吏にすぎません」と答えざるをえなかったのである。

昭和三〇年三月一一日、伊江島にとって運命の日がやってきた。早朝八時、三隻の大型上陸用舟艇が東海岸に乗りつけ、中から三〇〇名ほどの武装した兵士が上陸した。部隊はジープ、トラック、催涙ガス、負傷者運搬用の担架、野戦用のテント、軍用電話まで用意する物々しいいでたちであった。そしてブルドーザーが唸り、農地に鉄条網が張りめぐらされていった。

「二日後、芋、落花生、サトウキビの畑が無惨に踏みにじられ、家が荒れ狂う〝爪〟に引きむしられていきました。熱があって寝ている幼児の家も容赦なく破壊され、火をかけられた家もありました」（阿波根氏）

米軍は、言葉のうえでは農耕を土曜、日曜に認めたが、実質的には爆撃演習のため農作業は不可能な状態だった。生活の糧を断たれた農民の中から餓死するものも出た。最初、生活保護費を支給して

▲米軍爆撃機の間近で草を刈る農民たち。広大な軍事基地は、住民の生活を圧迫し続ける。昭和26年11月撮影。

▲米軍による土地接収の現場。武装兵が出動し、強制的に住民を立ち退かせた。昭和30年3月、場所は伊江島と推定される。 那覇出版社提供

いた琉球政府が、農耕許可を理由に支給を打ち切るにいたって、危険を賭して立ち入り禁止地帯に入り、逮捕、投獄されたものが八十数名にのぼった。米軍の監視兵に強姦された娘もいた。それでも農耕を続ける農民に、米兵は威嚇射撃を繰り返し、ついにはおよそ一〇〇万平方㍍の農地にガソリンがまかれ、農作物も樹木も焼き尽くされたのである。焼き尽くしは何度も何度も繰り返された。

ここにいたって、伊江島の人々は沖縄の全島行脚で窮状を訴える作戦を企画した。それは後に「乞食行進」と呼ばれた。行進の先頭には「乞食は恥ずかしい、しかし乞食にさせた米軍はもっと恥ずかしい」と大書されていた。

これをきっかけに戦いは沖縄全域の「島ぐるみ闘争」へと広がっていく。一〇万人、一五万人が大挙して集まる集会が続いた。そして昭和三三年夏に一応の区切りを見るまで「島ぐるみ闘争」は三年にわたり続けられた。

昭和四七年、沖縄は日本に復帰するが、現在も、日本全土の一％未満の土地に、在日米軍基地の七五％が集中している。

「米軍の土地収用は、日本の施政権から沖縄を分離する対日講和条約第三条を根拠に、布令、布告という強権を乱発したもの。だが、契約拒否の自由は残した。だから心の中には踏みこんでこないと言われた。『島ぐるみ闘争』は、土地使用料を引き上げ、地主の所有権を残す形で収束した。しかし、日本政府は既成事実を特別法で追認しただけでなく、反戦地主を村八分にして契約を強要するなど、ある意味で米軍より悪質だ。さらに橋本政権は米軍用地特別措置法を改悪、憲法の規定する財産権すら否定して、土地所有者の権利を奪った。だからこれは『永久暫定使用法』と言われた。その意味で、沖縄問題の本質的解決は、いまだになされていない」と、一坪反戦地主会代表世話人で、沖縄大学の新崎盛暉教授は言うのである。

▶新規接収反対などの、「土地を守る四原則」を掲げて闘う、伊江島真謝区の人々。沖縄の「島ぐるみ闘争」に、本土からも救援物資が寄せられた。 沖縄タイムス

女たちの肖像

戦後バレエ・ブームを築いた“華麗なるプリマ”貝谷八百子大作「くるみ割り人形」上演！

稲葉真弓

この年の七月二五日、東京・帝劇で貝谷バレエ団の結成一五周年記念公演が華々しく開幕。上演されたのは日本初演のチャイコフスキー作「くるみ割り人形」だった。登場人物延べ三〇〇人、約三時間の大作を率いたのは貝谷八百子（三二）。ちょうど世は戦争の反動から文化熱がさかんで、戦後初の「白鳥の湖」が上演されるなどバレエ・ブームに沸く中での公演だった。

この戦後バレエ・ブームを作ったのが、昭和二一年、日本で初めて「白鳥の湖」全幕を公演しロングラン記録を作った貝谷八百子だったといっても過言ではない。身長一六六㌢と日本のバレリーナとしては大柄な体をいかしたスケールの大きい踊りは、後の日本バレエ界に多大な影響を与えた。しかし、もともと彼女がバレエを始めたのは、未熟児として生まれ、ゴボウのように痩せていた体をなんとか丈夫にしたいと、

▶二一年の「白鳥の湖」は一七回連続公演を記録。

母親が勧めたものだったという。

大正一〇年、福岡県大牟田市の銅山王として知られた名家の末娘として生まれた彼女は、三歳で踊りを始め一三歳で上京、文化学院に通いながら日本に亡命していたロシアのバレリーナ、エリアナ・パブロワの門下生になった。パブロワの指導は厳しく、失神するまで踊らされたうえバケツで水をかけられ、「オキロ、オキロ」とハイヒールで蹴飛ばされることもあった。

この血のにじむような稽古のおかげで、文化学院を卒業した昭和一三年、一七歳でプリマとしてデビュー。歌舞伎座を三日間借り切って「瀕死の白鳥」を踊り、大入り満員にしたが、異例に早いデビューとその才能を妬む人々から“金持ち娘の道楽”と陰口をたたかれる辛酸もなめた。

昭和二九年には、「白鳥の湖」を新しい演出で発表、創作バレエにも力を注ぎ、三〇年、ガーシュインの「ポーギーとベス」を初演するなど、古典にとらわれない大胆かつ刺激的な作品を次々と発表した。

私生活では「ポーギーとベス」の相手役をつとめた六歳年下の門下生、外務省官吏の高本典太と昭和三二年に結婚、夫の協力のもと、四〇年には後継者を育てるために貝谷芸術学院（現・貝谷芸術専門学校）を設立した。六六歳で現役を退いた後は後進の育成に力を注いだが、平成三年三月、急性肺炎のため永眠。六九歳だった。

勝者・敗者

「心臓破りの丘」のドラマ！苦しい上りにめげず先頭に山田敬蔵、ボストンを制す

阿部珠樹

ボストン・マラソンは、第一回の近代オリンピックの翌年、一八九七年から始まった伝統ある大会で、現在は市民ランナーも参加して、号砲が鳴ってから最後方がスタートするまで一〇分もかかるほど大規模なレースになっている。

しかし、山田敬蔵（二五）が参加したこの年四月二〇日の第五七回大会は、出場者一九九名、今から見れば信じられないほど静かな大会だった。

レースは、スウェーデンのレアンダーソンが後続を大きく引き離して引っぱる展開で進んで行く。約一〇〇㍍遅れで集団が追う。この中には山田もまじっていた。ペースは速い。スタートから一二・八㍄（約二〇・五㌔）の第三チェックポイント通過が大会記録を四分以上も上回る一時間七分二二秒。快記録の期待が高まる。

名物の「心臓破りの丘」にさしかかっても、先頭は依然レアンダーソン。その後ろを、山田が徐々に迫っていく。フィンランドのカルヴァーネンとともに追いすがり、優勝争いは三選手にしぼられる。

我慢比べと思われた「心臓破りの丘」で意外なことが起こった。身長一六〇㌢たらずの小柄な山田が、苦しい上りにもめげず、ついにレアンダーソンを捕らえたのだ。三七㌔すぎの地点である。先頭に立った山田は、徐々に差を広げ、そのまま押しきって先頭でゴールした。優勝タイムは二時間一八分五一秒。前年、イギリスのピータースが出した世界最高記録を二分近くも縮める大記録だった。ボストンでは、この二年前に田中茂樹が優勝を飾っていたが、山田はその勝ちっぷりと記録のすばらしさで圧倒的な印象を与えた。

前年のヘルシンキ・オリンピックに出場しながら惨敗した山田は、冬場、寒い秋田の勤務地を離れ、暖かい岡山で十分に走りこんで、オリンピックの雪辱を期していた。その成果が、みごと春のボストンで花開いたのである。ボストンは後に瀬古利彦なども優勝する、日本人になじみの深い大会だが、世界に与えた衝撃では、山田のレースに勝るものはない。

WWP

▲2位のカルヴァーネン（左）、3位のレアンダーソンも、ともに従来の世界最高記録を上回る、ハイレベルのレースだった。

1月

文藝春秋提供

毎日新聞社

▲「第三の新人」登場（1月）写真左から吉行淳之介、遠藤周作、近藤啓太郎、庄野潤三、安岡章太郎、小島信夫。「文学界」1月号で山本健吉が用いた言葉で、彼らはめざましい活躍を続け大作家となる。

▲秩父宮、逝去（1月4日）12年前から結核を患っていたが、肝臓炎を併発、藤沢市の自邸で亡くなった。50歳。「スポーツの宮様」と親しまれ、12日の一般告別式には2万5000人が別れをおしんだ。

◀米大統領にアイゼンハワー（1月20日）前年11月に行われた選挙で大勝、20年ぶりの共和党政権を誕生させた。写真は翌日、側近と集団宣誓する新大統領（中央）。

毎日新聞社

◀日米韓会議（1月6日）中断した日韓会談以後の関係打開のため、クラーク国連軍司令官の仲立ちで李承晩大統領（中央右）が来日。吉田首相と会見したが、好転せず。

◀「日本丸」、玉砕の島々へ遺骨収集（1月31日）遠洋航海訓練をかねて東京港を出航。サイパン、グアム、硫黄島など約10万人の日本兵が眠る南方8島へ向かい、3月に440体の遺骨を持ち帰った。

毎日新聞社

▶保安隊特車、大行進（1月22日）群馬県新町駐屯の独立第1特車大隊がM24軽戦車の隊外操縦訓練で埼玉県本庄町へ。町民の見守る中を16台が通過、保安隊の威容を見せつけた。

昭和28年1月

1（木）●中国、工業化目標の第一次五ヵ年計画開始。
2（金）●第一回全国大学サッカー開幕。東大が優勝。
3（土）●越後湯沢でスキーリフト逆走。一四人死傷。
4（日）●秩父宮雍仁、死去（異例の火葬）。
5（月）●NHKラジオ、「笛吹童子」の放送開始。
6（火）●戦後初の日比親善使節団来日。
7（水）●西独VW社、年一〇〇〇台を対日輸出と発表。
8（木）●明治大、集団暴行事件のボクシング部を解散。
9（金）●今井正監督「ひめゆりの塔」封切。
●米で予算教書提出。歳出の七三％は国防費。
10（土）●カンボジア・ラオス・ベトナム、対日復交。
11（日）●東京教育大付属小、学科試験合格者五一三人から二〇人を抽選する新方式の入試実施。
12（月）●航空機生産審、ジェット機試作促進を答申。
13（火）●モスクワ放送、ソ連の要人暗殺容疑でユダヤ人テロ団を検挙と発表（東欧で反ユダヤ運動）。
●政府、義務教育費の全額国庫負担を決定（自治体各首長会と日教組、教育集権化と反対）。
14（水）●ユーゴスラビア大統領にチトー選出。
15（木）●岩国市で台風で流失した錦帯橋が再建される。
●国鉄、定期券乗り越し手数料一〇円徴収開始（利用者の反発大きく29日廃止決定）。
16（金）●香港政庁、貿易面での日本の敵国扱いを解除。
17（土）●いすゞ自動車、水陸両用トラックを試運転。
18（日）●沖縄で第一回祖国復帰県民総決起大会。
19（月）●藤原義江ら混血の知名人が混血児救済運動へ。
20（火）●警視庁、御徒町のマーケットを捜索し三六人検挙。ヒロポンなどトラック一三台分押収。
●アイゼンハワー（共和党）、米大統領に就任。
21（水）●厚生省、風邪ワクチン一〇万人分配給を通知。
22（木）●韓国、日本に韓国人戦犯釈放申し入れと発表。
23（金）●山梨県副知事ら、富士山八合目以上の浅間神社への払い下げ反対を陳情（2月5日デモ）。
24（土）●栽培技術と農薬の進歩で関東以西で二期作を実施し、五〇〇万石増産へと新聞に。
25（日）●ワシントンで日本古美術展開幕（〜2月25日）。
26（月）●早大山岳部、南米アコンカグアに登頂。
27（火）●鏡里、第四二代横綱に。青森県出身では初。
28（水）●銀座で火災。「銀馬車」など焼失し七九人死傷。
29（木）●東証、株価急騰・出来高激増で立会い時間を三時間に短縮（2月9日臨時立会い停止）。
30（金）●通産省、中国向け輸出解除品目九三を公表。
31（土）●サイパン・テニアンなど南方八島へ、初の戦没者遺骨収集のため「日本丸」が出港。

ニュース・ファイル 1953

フォト＋日録で再現する365日

テレビ本放送が開始され、街頭テレビのプロレスや野球中継に人々は夢中になった。朝鮮特需の衰退と不況の深刻化、内灘などの演習地反対闘争の激化が暗い影を投げつつも、流行のスクーターに乗った若者たちの表情には、どこか明るさが感じられた。

◀スクーターの二人乗り、流行（6月）「初夏の風切るあなたと私」の見出しで、東京の街をさっそうと走る新風俗のミニ特集が写真新聞に出た。前年あたりから目立ち始め、操作が簡単、腰掛け式で、女性にも人気。

毎日新聞社

共同通信社

▲吉田首相、衆院予算委で「バカヤロー」発言（2月28日）右派社会党・西村栄一の質問に激したもので、初の懲罰動議に続き内閣不信任案も可決され、首相は衆院を解散。世に言う「バカヤロー解散」。

▲「スパイ事件」公判（2月7日）米軍に拉致された作家・鹿地亘が解放された直後に、「自分はソ連のスパイで鹿地も一員」と自首した三橋正雄が、電波法違反で東京地裁に出廷。翌月有罪判決。

▼富士山私有反対（2月5日）前年暮れ、大蔵省が富士宮市の浅間神社に山頂の払い下げを発表。山梨県や全日本観光連盟などが反発し、富士山をかたどった神輿をかつぎ国会周辺をデモ行進。

共同通信社

NHK提供

▶「ジェスチャー」放映開始（2月20日）出題された言葉や文章を身ぶりで表現して解答者にあてさせる、テレビならではのクイズ番組。NHKで15年間も続いた。出演は柳家金語楼、水の江滝子ら。

毎日新聞社

▲SKDをめざし入学試験（2月8日）松竹音楽舞踊学校が予科新入生を募集すると、30人定員に対し約1000人が応募。受験資格は14～17歳の女子。東京・歌舞伎座別館で身長、容姿、演技などの審査が行われた。

北海道新聞社

◀初めて人工降雪に成功（2月3日）渇水による停電が年中行事化していたところから、各地の電力会社が研究。東北・北海道電力は北海道旭川市の石狩川旭橋上流で実験した。零下20度前後で濃霧の中に沃化銀とアンモニアの混合液を噴射。これが粉雪となり、数分間降り続いた。

昭和28年2月

1（日）●NHK東京テレビ局、本放送を開始（受信料月額二〇〇円、契約数八六六）。
●オランダ・ベルギー・英の沿岸部で大洪水、一五〇〇人以上が死亡。
2（月）●一〇年ぶりの渇水で二時間の輪番停電と東電。
3（火）●旭川市で初の人工降雪実験に成功。
●学徒援護会、供血学生から代金を搾取する悪徳業者取締りを厚生省に要望。
4（水）●韓国、李承晩ライン付近で日本漁船「第一大邦丸」を拿捕（後に機関長射殺）。
5（木）●若尾文子ら出演「十代の性典」封切。
●主婦連、黄変ビルマ米の拒否運動実施を決定。
6（金）●都立朝鮮人学校PTA連合会、都教育庁に朝鮮人子弟の義務教育など六項目申し入れ。
7（土）●民放五局で総評提供「総評アワー」放送開始。
8（日）●前年の時計生産が戦前最高を突破と新聞に。
9（月）●テルアビブのソ連公使館襲撃（12日ソ連、イスラエルと断交）。
10（火）●国民金融公庫、母子家庭への貸し付けを開始。
●閣議、電気・石炭産業のスト規制法案決定。
11（水）●岐阜県坂上村の発電所工事現場で雪崩。富山刑務所の囚人ら四人死亡、六人重傷。
12（木）●原爆乙女の歌「ほほえみよかえれ」発表。
13（金）●在日米軍の飛行艇が門司市に墜落。八人死亡。
14（土）●東京都府中町の火薬工場で爆発。二一人死亡。
15（日）●日赤・日中友好協会など、北京で中国紅十字会と邦人引揚げの初会談。
16（月）●米軍機、ノサップ上空でソ連型戦闘機に発砲。
17（火）●福島県、東電の猪苗代湖緊急利用申請を認可。
18（水）●チャップリンの「ライムライト」封切。
19（木）●東京拘置所から死刑囚二人脱走（20日逮捕）。
20（金）●NHKテレビ、「ジェスチャー」放映開始。
21（土）●東京に大雪。翌朝まで交通事故一〇一件記録。
22（日）●小学校長会、義務教育学校職員法案に反対。
23（月）●日本・ノルウェー航空協定、オスロで調印。
24（火）●台湾、日本郵船・大阪商船に定期航路を認可。
●第一回菊池寛賞に吉川英治『新・平家物語』。
25（水）●閣議、自治体警察廃止など警察法改正案決定。
26（木）●台湾・香港との三角貿易による台湾バナナ三二〇〇かご初輸入の契約締結。
27（金）●文部省、教養学士など新学士号二四種を決定。
28（土）●吉田茂首相、衆院予算委で「バカヤロー」と質問者に暴言（3月2日首相懲罰動議可決）。
●日教組、教育防衛全国大会開催。四万人参加。

朝日新聞社

▶巨人軍、プロ球界初の米国キャンプ（2月17日）カリフォルニア州サンタマリアに滞在。オープン戦を行うなど本場の技術を貪欲に吸収。写真はハリウッドでヤンキースのディマジオと握手する左から藤本・別所・川上。

ジャック岩田／共同通信社

◀中国からの引揚げ第1船到着（3月23日）約6万人とも言われた残留日本人の帰還が、日本赤十字社など民間3団体の尽力で実現。まず2009人を乗せた「興安丸」が舞鶴港に入港した。写真は、壱岐水道を舞鶴へ向かう「興安丸」。

共同通信社

▲「鳩山新党」誕生（3月18日）1月の役員改選から内紛状態の自由党が衆院解散でついに分裂。三木武吉ら民主化同盟派議員22名と広川弘禅派15名が結束して、鳩山一郎（写真）を総裁とする分党を結成。

▼模擬砲弾製造中に爆発（2月14日）東京都府中町の多摩火工工場で保安隊用の模擬砲弾製造中、火薬が爆発、14棟が大音響とともに破壊され全焼、21人が死んだ。写真は現場近くの空地に並ぶ柩。

毎日新聞社

▶皇太子、横浜を出港（3月30日）6月2日の英国女王エリザベス2世の戴冠式に天皇の名代として参列し、あわせてヨーロッパ14ヵ国を歴訪する旅に出発。その様子はテレビ中継された。10月12日、飛行機で帰国。

共同通信社

▶ソ連首相スターリン（73）死亡（3月5日）30年にわたり世界初の社会主義国の指導者として君臨し、ソ連を米国と並ぶ強国に押し上げたが、脳出血に倒れた。重体説が流れると世界の株式市場では冷戦雪どけの予想から、軍需株を中心に大暴落が起きた。後継は側近のマレンコフ。

ユニフォト・プレス

昭和28年3月

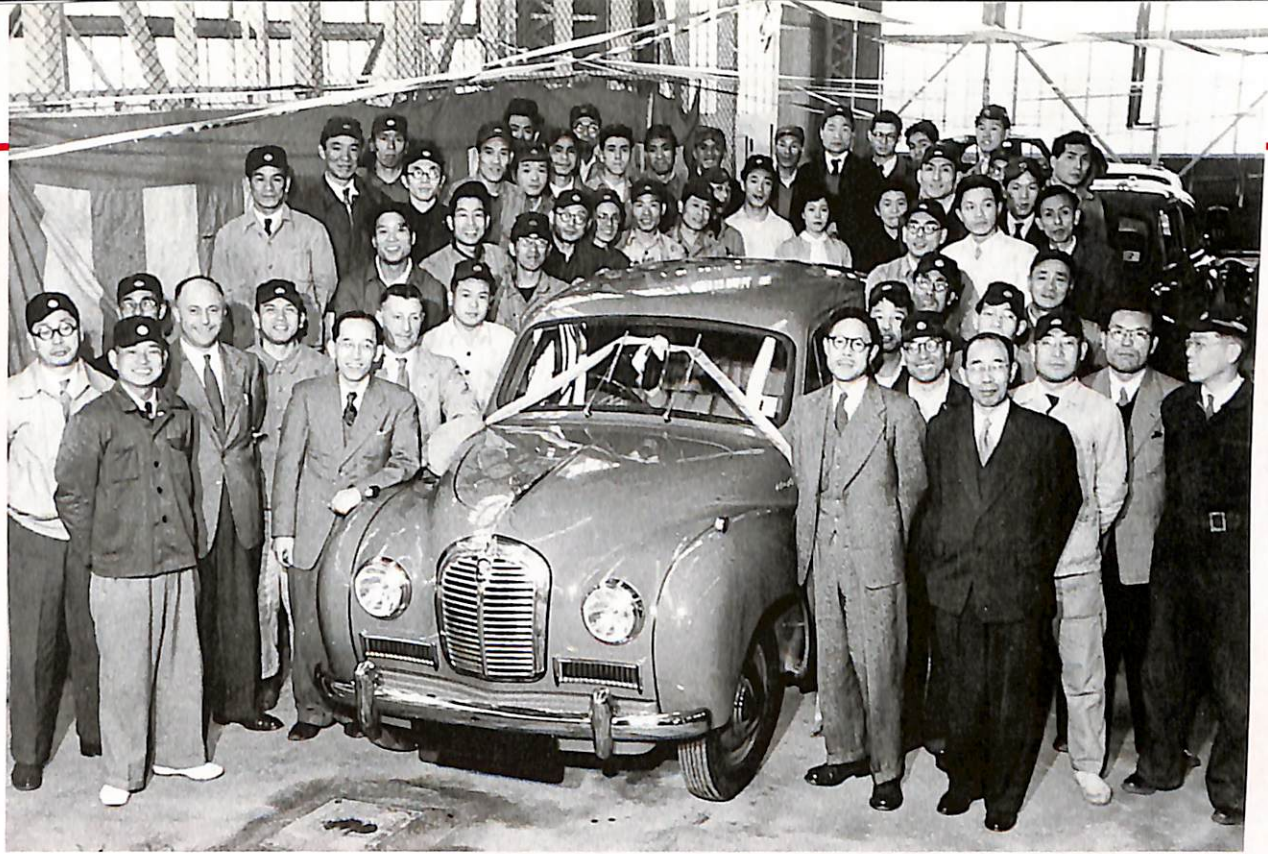
1（日）●酒税法改正で酒類が最高二五㌫値下げされる。
2（月）●巡視船、三宅島沖で密輸船乗組員五人を救助。
3（火）●三菱造船など三社、スイスのエッシャーウィス社のガスタービン技術導入を認可される。
4（水）●前年の造船量で日本は世界二位とロイド協会。
5（木）●スターリン死去（6日後継首相マレンコフ）。
●仏ルノー車発売のため日野ルノー販売、設立。
6（金）●赤字市町村が七二〇に激増と自治庁報告。
7（土）●横須賀市で第一回「基地の子どもを守る全国会議」開催（二二ヵ所の代表が実情報告）。
8（日）●宮城県丸森町で火災、五四戸二〇〇棟全焼。
9（月）●大井競馬場でスターティング・ゲート初設置。
●浮浪児減り警視庁が浮浪少年係廃止と新聞に。
10（火）●東宝、立体映画の試写に成功。本格製作へ。
11（水）●日航、初のスチュワーデス実地訓練を開始。
12（木）●政府、旧軍人会館を遺族会に無償貸与と決定。
13（金）●慶大の入試合格発表に初の電報出張所開設。
14（土）●衆院、内閣不信任案可決。吉田首相、衆院解散。
15（日）●国鉄、博多―京都間に特急「かもめ」運行。
16（月）●欧米で機械によるひよこの雌雄鑑別法が流行し日本製テスターの需要伸びると新聞に。
●自由党、広川弘禅派ら三四人を除名。
17（火）●麻薬取締法公布（4月1日施行）。
18（水）●山吹証券倒産（スターリン死亡が輪をかけた株価暴落で証券倒産は前月末から七件）。
19（木）●福岡県の釈迦ケ岳トンネル工事現場で落盤。五五人生き埋め（翌日三四人救出）。
●文学座、「欲望という名の電車」初演。
20（金）●政府、メーデーでの皇居前広場使用を禁止。
●東京地裁、米ソ二重スパイの三橋正雄に実刑。
21（土）●武内駐米公使、貿易使節として南米歴訪出発。
22（日）●米軍朝霞キャンプに強盗、日本人二人逮捕。
23（月）●中国帰還第一陣「興安丸」と「高砂丸」で三九六八人が舞鶴に入港。
24（火）●国際電信電話、設立。社長・渋沢敬三。
25（水）●郵政省、電灯七五周年記念十円切手発売。
26（木）●溝口健二監督・京マチ子主演「雨月物語」封切（ベネチア国際映画祭で銀獅子賞受賞）。
27（金）●文化財保護委、善光寺本堂など新国宝答申。
28（土）●東大で旧制最後、新制第一回の卒業式。
29（日）●松本市の信州大付属病院で火災。三棟全焼。
30（月）●皇太子、英女王戴冠式出席のため横浜を出港。
31（火）●厚生省、体内にアセトアルデヒドを作り、酒が嫌いになる薬アンタビュースに販売許可。

日産自動車提供

▲「日産オースチン」第1号車完成(4月4日)日産が英老舗自動車メーカー、オースチン社と技術提携した「日産オースチンA40サマーセットサルーン」を横浜の鶴見工場で披露した。

毎日新聞社

▲銀座のシンボル、森永のネオン登場(4月11日)東京・銀座4丁目角の不二越ビル屋上に設置。東洋一の規模と言われた直径11メートルの地球儀形で、屋外広告電通賞を受賞。昭和58年解体。

▼「立体映画」上映(4月8日)東京のピカデリー劇場でアメリカ映画「メトロスコピックス」が公開。偏光眼鏡で立体感が得られたが、眼鏡を持つ手が疲れると不評。

PPS

◀遺伝子の謎、二重らせん構造解明(4月25日)米の生物学者ワトソン(左)と英の分子生物学者クリックが遺伝子の基本的な物質であるＤＮＡ(デオキシリボ核酸)の構造模型を発表。

日本水産提供

▲北洋漁業再開(4月8日)講和条約発効によるマッカーサーライン廃止で、日魯・大洋・日水3社が戦後初の母船式蟹漁を実施。写真は函館を発つ日水船団。

毎日新聞社

◀阿蘇山、突如爆発(4月27日)火口付近にいた修学旅行生など多数の登山者が降り注ぐ溶岩や噴石を受け、死者5人、重軽傷者69人を出す惨事となった。

毎日新聞社

昭和28年4月

1(水)●運輸省航空局、羽田空港国際航空無線施設の自主運営を開始。
●浅草本願寺で秋田県花岡鉱山などの中国人捕虜殉難者慰霊祭を挙行(6月23日遺骨送還)。
2(木)●日米友好通商航海条約、調印(10月30日発効)。
3(金)●琉球米民政府、沖縄の土地収用令公布。
4(土)●日産、オースチンA40を完成(17日発売)。
5(日)●日本婦人団体連合会結成。会長・平塚らいてう。
●初のジェット旅客機、英の「コメット」定期便一番機が羽田着。
6(月)●東京・渋谷の暴力カフェ摘発で検挙一二四人。
●選抜高校野球で初出場の洲本高校が優勝。
7(火)●国連の第二代事務総長にハマーショルド選出。
8(水)●公務員争議禁止の政令二〇一号合憲と最高裁。
●保安大学校(現・防衛大)が開校、入校式挙行。
9(木)●厚生省、農薬パラチオンは人命に危険と断定。
●越路吹雪、シャンソン留学で仏に出発。
10(金)●総評、中国からのメーデー招待受諾と決定。
11(土)●出光興産、国際石油資本に抗しイランとの石油輸入交渉成立、「日章丸」がアバダン入港。
●森永製菓、銀座に地球儀形巨大ネオンを設置。
12(日)●第一回全国婦人会議、開催。
13(月)●公取委、横井産業社長・横井英樹に白木屋株買い占めは独禁法違反の疑いと審判開始通達。
14(火)●愛知県稲沢町公民館で天井落下。六人死亡。
15(水)●呉市で酒酔い豪兵がカフェに手榴弾投げる。
16(木)●静岡県の佐久間ダム、着工(31年完工)。
17(金)●米M・マントル、一七二㍍の最長本塁打記録。
18(土)●豪領海で拿捕された日本漁船、罰金払い釈放。
19(日)●第二六回衆院選(左右社党二三増、保守減)。
20(月)●山田敬蔵、世界最高でボストン・マラソン優勝。
21(火)●中尊寺で盗難の重文華鬘が東京と岩手で発見。
22(水)●安藤画一慶大教授によると日本の人工受精児は五四人、と新聞に。
23(木)●日本ポリドール、設立。
24(金)●第三回参院選(市川房枝、東京で二位当選)。
●琉球米民政府、日の丸掲揚を許可と通知。
25(土)●岩波など四三社が教育映画製作者連盟結成。
26(日)●英ニューカッスル市で元日本軍捕虜約一〇〇〇人が皇太子を歓迎する市に抗議行動。
27(月)●阿蘇山、大爆発。修学旅行生ら五人死亡。
28(火)●永平寺派の越中本山の立山寺、山門以外全焼。
29(水)●米教団から寄贈の衣類などの積載第一船入港。
30(木)●主要五四行残高の六㌫が粉飾預金と大蔵省。

証言・あの日この日

小泉信三(65)

5月13日(水)〈夜9時半、妻とともに麻布広尾の家を出て、羽田飛行場に往く。見送りの人々と挨拶する中、沖縄上空の天候不良のため、11時半なるべきコメット機の出発遅るる旨発表せらる。午前3時半に至り発す。機の客席30の中、外人は2、3のみ〉(小泉信三『外遊日記』)

皇太子(現天皇)の教育参与だった小泉信三は、6月2日に行われるイギリス、エリザベス女王戴冠式に参列するため、皇太子に少し遅れて、ロンドンに向かう。数日がかりの飛行だ。ロンドンで、ある新聞記者から、〈殿下には戴冠式その他、豪華な式典に列せられたが、他面において、貧しき労働者の状態についても御興味ありや〉と質問された小泉は、〈それは正に皇太子たるものの最も関心を寄せるべきことで、殿下はよくそれを感じておられると思う〉と答える。(坪内祐三)

CORBIS-BETTMANN／PPS

◀ヘミングウェーの「老人と海」にピュリッツァー賞(5月)海に生きる老人の姿を簡潔な文体で描いた傑作は、1954年のノーベル文学賞も受賞。海釣りを好む「ロストジェネレーション」の代表作家が巨大なマカジキをしとめた写真。

▼11階建て都営住宅出現(5月)東京・渋谷の宮益坂に1～4階が店舗や事務所、5階以上が住居という鉄筋コンクリート造りの通称「下駄履きアパート」が完成。住宅復興計画の一環として建設・分譲されたが、最低でも75万円という"雲上人"価格。

毎日新聞社

▼東京駅前に女性交通巡査(5月)昭和21年に誕生した警視庁の婦人警官は、一時は350名にもなったが、半数に激減。交通係は貴重な配置先となっていた。

毎日新聞社

▶島根県の出雲大社炎上(5月27日)供物を調理する鑽火殿から出火、約450年前に建てられた拝殿、庁の舎など約300坪を全焼。八足門も半焼したが、本殿は無事。

朝日新聞社

▶浅間山麓演習場化、反対運動(5月3日)日米行政協定合同委員会からの通告に対し、軽井沢町民は絶対反対の気勢を上げた。この勢いに政府と米軍は、激しい闘争となった内灘の二の舞を恐れ、断念した。

毎日新聞社

昭和28年5月

1(金)●ジョージ川口、松本英彦らのジャズ・カルテット「ビッグ・フォー」、日劇で旗揚げ公演。
2(土)●南氷洋で七ヵ国が捕鯨オリンピック開催。優勝はノルウェーで日本は三位、と新聞に。
3(日)●通産省、テレビ国産化確立対策を決定。
4(月)●全国に混血児は三九七〇人と厚生省実態調査。
5(火)●日劇で眼鏡つき立体映画「恐怖の街」公開。
●米大統領、インドシナ三国への援助強化言明。
6(水)●米で人工心肺使用の心臓手術に初成功。
7(木)●東大地震研、浅間山の米軍演習地反対を表明。
8(金)●東電、五万五〇〇〇㌔㍗の火力発電機試運転。
●全小学校の四二㌫で給食実施と文部省調査。
9(土)●ブラジル移民募集要領発表。自己資金五万円。
10(日)●日本ウイルス学会、創立。
11(月)●都家計調査で勤労世帯収入は二万六六一〇円。
12(火)●外務省、一㌦＝三六〇円の円平価決定を発表。
●戦後初の文化協定、日仏文化協定調印。
13(水)●共産党の潜行八幹部の一人、松本三益、逮捕。
14(木)●石川県内灘村村議会、米軍試射場の永久使用反対を決議(15日県議会も反対決議)。
15(金)●韓国・仁川港の集会で日本人労働者追放決議。
16(土)●東宝、アーニーパイル劇場の米軍使用許可は違法と東京地裁に提訴(6月24日勝訴)。
17(日)●仏の豪華客船「ラ・マルセイエーズ」横浜出港。
18(月)●特別国会召集、野党から衆院正副議長選出。
19(火)●日本コロムビアがカラーテレビ実験公開放送。
20(水)●北海道恵庭町の米軍演習場で実弾射撃により山火事発生(翌日までに約三〇〇㌶焼失)。
21(木)●第五次吉田内閣、自由党単独少数内閣で組閣。
22(金)●東京で予備校増加、約二万人が学ぶと新聞に。
23(土)●北海道江別町で大火。一三四七人被災。
●第一回日本婦人大会、開催(～24日)。
24(日)●第二〇回日本ダービー。優勝ボストニアン。
25(月)●スカンジナビア航空機、オスロから羽田に向かい初の北極横断飛行に成功。
●日産自動車、争議始まる(9月21日終結)。
26(火)●東京六大学野球で立教大が二〇年ぶり優勝。
27(水)●出雲大社鑽火殿から出火。拝殿など焼失。
28(木)●台湾バナナ五億円分不正輸入の貿易商ら送検。
29(金)●英エベレスト遠征隊、二人が初登頂に成功。
30(土)●電源開発、佐久間ダム建設のためバンク・オブ・アメリカと七〇〇万㌦借款契約に調印。
31(日)●官房長官・福永健司派の選挙違反で留置中の浦和市議、留置場で自殺。

◀**燃え上がる内灘闘争(6月12日)**石川県議会の反対決議にもかかわらず、2日、政府は米軍試射場の無期限使用を決定。怒った住民は砂丘にいくつも舟小屋(写真)を建てて抵抗するが、警官隊に排除され、15日試射再開。　松原茂

▼**「男装の麗人」ターキー引退(6月6日)**松竹歌劇団(ＳＫＤ)のトップスター水の江滝子が東京の浅草国際劇場で15日間のさよなら公演を行った。昭和3年に初舞台、歌って踊るレビュー一筋25年、一世を風靡した。

▼**西日本大水害(6月25日)**30日にかけて九州中・北部を中心に700ミリの記録的豪雨が襲い、筑後川も氾濫、死者・行方不明は1166人。写真は開通以来初めて浸水した関門トンネル。

▶**川崎製鉄千葉製鉄所1号炉完成(6月17日)**千葉市川崎町で進めていた初期工事が終了、火入れ式となった。昭和31年にはストリップ・ミルを導入、すべて流れ作業となる製鉄一貫工程が完成した。

川崎製鉄提供

毎日新聞社

毎日新聞社

◀**エリザベス英女王戴冠式(6月2日)**父王ジョージ6世を継いで即位。ロンドンのウェストミンスター大聖堂には日本の皇太子ら世界74ヵ国から代表が出席。女王は27歳だった。

昭和28年6月

1(月)●噴霧式殺虫剤「アース・エアゾール」発売。
2(火)●英国女王エリザベス二世、戴冠式。
3(水)●岩国市教委、県教組編『小学生日記』『中学生日記』を偏向と回収決定(山口日記事件)。
4(木)●中央気象台、台風の呼び名を外国女性名から発生順の番号にすると発表。
5(金)●コペンハーゲンで世界婦人大会開会。六七ヵ国七〇〇〇人が参加(日本は赤松俊子のみ)。
6(土)●水の江滝子の松竹歌劇団引退公演が開幕。
7(日)●高崎市で妙義・浅間の米演習地反対県民大会。
8(月)●朝鮮休戦本会談で捕虜交換協定に調印。
9(火)●米への講道館柔道使節団の壮行会が開かれる。
10(水)●警視庁、警官隊三五〇人動員し浅草の国際マーケット捜索。売春容疑など二四人検挙。
11(木)●内灘の接収反対委、座りこみの方針決定(12日舟小屋建設。15日米軍、試射再開を強行)。
12(金)●日米加漁業条約、発効。
13(土)●大川周明ら右翼一〇〇人、救国懇談会開催。
14(日)●警視庁、米軍軍票偽造団三人を逮捕。
15(月)●初の民間天気予報会社が開設半月、と新聞に。
16(火)●日本登山隊、マナスル登頂に失敗し全員下山。●京王閣競輪で判定に不満の一〇〇〇人が騒ぐ。
17(水)●東ベルリンで労働ノルマ引き上げなどに対して二〇万人ゼネスト。ソ連軍出動。
18(木)●自治庁、学生の選挙権は郷里におくと通達。●保安隊、富士山麓で初の大演習を開始。●米軍立川基地で輸送機墜落。一二九人死亡。
19(金)●世界平和擁護評議会、丸木位里・赤松俊子の「原爆の図」に国際平和文化賞金賞を授与。
20(土)●総評、五万人参加しスト禁止法粉砕集会開催。
21(日)●田中希代子、パリのマルグリット・ロンジャック・ティボーコンクールピアノ部門で四位。
22(月)●東北大明善寮で集団赤痢発生、患者二三人に。
23(火)●仮校舎で受講中の東京水産大学生、保安隊が使用している本校舎返還を要求し同盟休校。
24(水)●保健体育審、高校の課外での剣道復活を承認。
25(木)●西日本で豪雨(~30日、一一六六人死亡・不明、一五四万人被災、八万町歩が水没)。
26(金)●政府、対日ＭＳＡ(相互安全保障法)援助に関する日米交換公文を発表。
27(土)●東京渋谷区に日ソ図書館開館。蔵書一万冊。
28(日)●保安隊幹部六〇人が米陸軍歩兵学校で訓練。
29(月)●日銀の貸出残高が初めて三〇〇〇億円を突破。
30(火)●宮城道雄ら国際民族音楽会議日本代表が渡仏。

「現場」を歩く　青山

山本徹美

わが国スーパーマーケット第一号「紀ノ国屋」の〝頑固な〟哲学

▲お洒落な街・青山の名所のひとつでもある紀ノ国屋。遠方から訪れる人も多い。　但馬一憲

昭和二八年一一月二八日、東京・青山に「紀ノ国屋」がオープンした。店の正面はガラス張りで、その内側からサインペインターが営業時間などを反転させて書いた。その方式は日本初だったが、出入り口においてあるショッピングカートもわが国では初登場、品物を客が自分で選ぶセルフサービス形式から、ゴンドラと呼ぶ商品棚、レジスター、クラフト紙製のショッピングバッグにいたるまで、すべて初物づくし。スーパーマーケット自体がこの日初めて誕生したのであった。

同店事務管理室・加瀬正樹総務部長(四六)によると開店までには現在では想像できないような困難があったようだ。

「カートは輸入されておらず、五台調達するのがやっと。紙袋は特注品で、なんでもないようなものの準備に大層苦労した、と聞いております」

店主の増井徳男氏(現・代表取締役相談役=八二)は宮内省御用達だった果物屋「紀文」の二代目だが、ＧＨＱ(連合国総司令部)に青果類を納入したのがきっかけで、アメリカ式食品衛生観念と、販売方式を学ぶ。

「いずれ食生活は欧風化する。安全で高品質な食料品をそろえた店に」

というのが、設立意図だった。が、当初の客は近隣の「代々木ワシントン・ハイツ」住人である米軍関係者がほとんど。

「ドアを閉めて商いをするなど、この青山では珍しく、中には『ドル札でなくちゃ、買えないのでは』と、尻ごみするお客さんもいらしたそうです」(加瀬氏)

ユニークなスーパー

店内を歩いてみた。オランダから直輸入した枝つきトマトが入り口を飾り、マジョラムなどのハーブ類や、米国産サポテなど見慣れないフルーツ類がオープンケース(冷蔵庫)を彩る。そのオープン式冷蔵庫の導入もここが最初である。

「商品は約二万五〇〇〇点。そのうち四割が輸入品です。ハーブは契約農家から仕入れたもので、その形態は創設以来当店の伝統となっております」(加瀬氏)

私は一五年前、あるプロ野球選手夫人からここの牛テール肉を推奨され、それが来店のきっかけになったように思う。

「牛は毎週、二〇頭前後、山形から丸ごと仕入れ、三鷹のミートセンターで解体して、熟成を待ち、食べ頃を店頭に出しています。すべて自社管理なので特殊なカットもできるのです」(同前)

そういうわけで、リブアイステーキ肉も、Ｔボーン肉もある。ここの肉は絶品だが、それ相応の値段なので、わが家では特別な日以外は食卓にのぼらない。

コンビニ店が商品管理に活用しているＰＯＳシステムを紀ノ国屋でも導入している。が、売り上げデータに振りまわされることなく、オーナーが必要と認めた品は棚から外されることはない。その頑固さ、経営哲学に私は親近感を抱いてしまう。スーパーマーケットでありながら廉売はしない。「味の百貨店」というべきユニークな存在である。

▲開店当時の紀ノ国屋。気楽に店に入れるセルフサービス方式が好評で、一人当たりの買い物額がふえ、売り上げも約4割ふえたという。　紀ノ国屋提供

ベストセラー

ラジオ、映画に、小説まで世はまさに「君の名は」一色

昭和二七年四月から始まったＮＨＫ連続ラジオドラマ「君の名は」の人気はすさまじかった。ドラマ継続中の同年末には単行本が刊行され、昭和二八年のベストセラーに。また秋には映画となって、これも大ヒットと、世はまさに春樹と真知子のラブストーリーで埋めつくされた。

単行本は、ドラマと並行して「ＮＨＫラジオ新聞」に連載されていた小説をまとめたもので、最終的には第四部（昭和二九年刊）まで刊行された。作者・菊田一夫によるとこの小説は「聴取者に対する解説書ともいうべき小説」であり「ラジオドラマの場面構成の順を追って」展開された。ラジオドラマのノベライゼーションだったわけだ。

同じ年（昭和二七年末）に刊行された『光ほのかに』（アンネの日記）は、一少女が日記を通して明らかにした〝戦争〟の実態が人々の心をとらえ、ベストセラーになった。ナチスの手から逃れようと隠れ家に住むユダヤ人一家の末娘アンネが、一三歳の誕生日を契機に記した日記で、周囲から隔絶された少女が、この日記を友とし、キティと名づけて日々語りかけたもの。ナチスに発見される三日前までの二五ヵ月が綴られていた。

またこの年のベストテンに『第二の性』が入ったのも、注目に値する。哲学者サルトルの友人としても知られるボーヴォワールの女性論で、その冒頭に記された「人は女に生れない。女になるのだ」という一行は、男社会の中で〝第二の性〟として女になっていく、その事実を浮び上がらせ、十分衝撃的だった。

敗戦とともに男性が意気阻喪していく中、女性がいち早く自分を取り戻していった時代にふさわしい論考だった。

●昭和28年のベストセラー

順位	書名
1位	『昭和文学全集』(全58巻／角川書店)
2位	『人間の歴史』(全6巻／安田徳太郎／光文社)
3位	『君の名は』(全4巻／菊田一夫／宝文館)
4位	『第二の性』(S・ボーヴォワール／新潮社)
5位	『光ほのかに』(A・フランク／文藝春秋新社)
6位	『現代世界文学全集』(全46巻／新潮社)
7位	『現代文豪名作全集』(全11巻／河出書房)
8位	『秘録・大東亜戦史』(富士書苑編／富士書苑)
9位	『新唐詩選』(吉川幸次郎・三好達治／岩波書店)
10位	『新・平家物語』(全24巻／吉川英治／朝日新聞社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『君の名は』全4巻(各180円)

▲『第二の性』第1巻(250円)

日本近代文学館提供

▲『光ほのかに』(240円)

スターと名場面

鶴田浩二が学徒兵の心情を「雲ながるる果てに」で好演

戦争の落とした影はまだまだ薄れてはいなかった。鶴田浩二が愛国学徒兵を演じた「雲ながるる果てに」（家城巳代治監督）では、特攻隊に身を投じた若者たちの、出撃直前の率直な姿が描かれた。確たる皇国史観を持って特攻隊に志願したかのように見えた鶴田浩二が、出撃を待つわずかな合間に見せた動揺は、十分納得できるものだった。出撃が早まったために、面会に来る両親に会えないことを知るや、望郷の念をおさえるすべもなく、一人、林の中で主人公が号泣するシーンは、戦時下の若者の心情をあますところなく映し出した。

小津安二郎監督の「東京物語」は、子どもたちに会いに、尾道から上京してきた老父母と、彼らを迎える子どもたちとの間の、人情の機微を描いたもの。

また時代劇では、溝口健二監督の「雨月物語」が、現実と表裏一体をなす幻想の世界をたくみに描き出した。主演の森雅之は、現実と幻想を往来する男を演じて、その微妙な存在感を表現して見せた。

この年、ほかに次のような作品が注目された。かっこ内はおもな出演者。「君の名は」（岸恵子、佐田啓二）／「十代の性典」（若尾文子）／「ひめゆりの塔」（津島恵子）／「禁じられた遊び」（ブリジット・フォッセイ）

大映提供

▲「雲ながるる果てに」で特攻出撃を前にした鶴田浩二(左)と、親友役の木村功(右)。

松竹提供

▶「東京物語」で、上京してきた両親を演じた笠智衆(右)と東山千栄子(左)。中央は戦争で死んだ息子の未亡人役の原節子。

大映提供

▲「雨月物語」の、現実の家族が霧深い湖を渡っていくシーン。中央が森雅之。その右に、その女房役の田中絹代。

モノ語り'53

化粧板「デコラ」、「ナイロンバッグ」「ビニールサンダル」押し寄せる〝素材革命〟の波！

▲いかにも近代的な表面材料が大流行　明るく清潔感のある表面材料「デコラ」が住友化工材工業(現・住友ベークライト)から発売され、食堂やバーなどの、テーブル、カウンターなどに大変革をもたらした。このデコラことメラミンプラスチック化粧板は、耐熱性に優れ、アルコールや薬品類に強く、しかも濡れた布で拭けばたいていの汚れが落ちるので手入れが楽という利点があった。標準的なもので厚さ1.5ミリ。色は7種類、柄は9種類あった。

▼素材革命が足元にもやって来た　軽くて丈夫、しかも安いという大きな特徴を持つビニールが、サンダルにも用いられるようになり人気を呼んだ。興國化學(現・アキレス)から発売された「ビニールサンダル」で、これは、ルビーボンドという強力な接着剤を用いて、ビニールと、靴底のゴムを接着させるという絶妙のアイディアを得て開発されたもの。以降、ビニールのサンダルはカジュアルな履物として一般的になっていった。

▲鞄も軽くて持ちやすくなった　素材革命の成果は、鞄の世界にも現れた。すでにビニール製の鞄はあったが、新川柳商店(現・エース)は東洋レーヨン(現・東レ)の協力を得て、ナイロンを素材とした「ナイロンバッグ」の開発に成功、1個1000円で発売した。業界初めてのことで注目されたが、カラフルで丈夫なナイロンバッグへの一般の反応は上々で、たちまちカジュアルバッグの定番となった。

▲素材革命は玩具の世界にも　新素材プラスチックは、玩具の世界にも進出しつつあった。東邦化工の「ままごとセット」は、そんな時代の先端を切った玩具。昭和26年に発売され、中小企業庁長官賞を受賞するなど注目され、昭和28年のベストセラーになった。ままごとの食器にも素材革命の波が押し寄せていたのである。　日本玩具資料館蔵

◀電気洗濯機がいよいよ普及し始めた　この年三洋電機が発売した「噴流式洗濯機SW-53型」は、電気洗濯機を一般家庭に普及させる起爆剤の役割をはたした。それまでの丸形を角形にして、狭い日本家屋に配置しやすくしたのと、価格を2万8500円と、2万円台にしたことなどで人気を呼び、翌29年には月産1万3000台に達した。この数字は昭和27年における全メーカーの年間生産台数1万5000台に匹敵する驚異的な数字だった。

▶10円玉が威力を発揮していた時代　昭和27年からさかんに流通するようになった10円玉でかけられる公衆電話「4号自動式ボックス公衆電話機」、通称〝青電話〟が昭和28年に登場した。ダイヤルして相手が出たらボタンを押し、それから10秒以内に10円硬貨を投入して通話する。逆に10秒以内なら無料で話すこともできたわけである。
逓信総合博物館蔵

▶化学合成物質の洗剤が人気に　花王石鹸(現・花王)が、すでに昭和26年に「花王粉せんたく」として発売していたものを、昭和28年、「ワンダフル」と名を改め、いかにも技術革新時代にふさわしい合成洗剤のイメージを打ち出した。すすぎなどが簡単なわりに強い洗浄力を持つうえ、匂いが残らないという特性を生かして、食器洗いや野菜洗いにも使えるという利点も強調された。200グラム入り50円。

人物クローズアップ

トニー谷（三五）

キザな口髭にフォックス形眼鏡 狂喜と反感を生んだ芸人の"毒"

◀キザの見本のような眼鏡と口髭に加えて、リズム楽器代わりにあやつるソロバンはトニー谷のトレードマークだった。
大谷たか子提供

昭和二八年一月七日付「朝日新聞」夕刊の「映画人・舞台人」という欄に、"意表に出る演技"の見出しでトニー谷（三五）が紹介されている。

「眼の前の客をサカナにしてぐんぐん観客の心理をつかんでゆく。好んで客席に飛び降りて、じかに観客にうったえる手段をとる。舞台から逆に見物席に野次を飛ばしてみたりする」

トニー谷という芸人が、マスコミに取り上げられた最初の記事だった。

トニー谷は、本名・大谷正太郎。大正六年一〇月一四日、東京の銀座に生まれ、日本橋で育った。生い立ちは複雑で、両親の愛をあまり受けずに少年時代をすごしている。後年の、社会を敵にまわしたような芸風は、こうした生い立ちから生まれたものだろう。戦時中は南京、上海、シンガポールなどを放浪したというが、経歴ははっきりしない。引揚げてきたのは昭和二〇年一二月で、その年の暮れに占領軍に接収されたアーニーパイル劇場（東京宝塚劇場）の制作部助手となった。そして、正式に観客の前に初めて登場したのは、二六年、日劇ミュージックホールの司会兼タレントになってからである。

「レディス・アンド・ジェントルメン、アンド・おとっつあん・おっかさん、おこんばんわ。ジス・イズ・ミスター・トニータニざんす」といった調子で、観客に向かってしゃべりまくる。野次を飛ばす客や、たちの悪い客がいると、舞台から客席に向かい「シャラップ！」「アホウ」「おだまり！」と叱りつけ、罵倒する。しかし、観客はそうした言葉が彼の口から放たれるたびに狂喜し、劇場は歓声に包まれた。

こうした、傍若無人とも思える芸風に加えて、口髭にフォックス形眼鏡という、いかにもキザなスタイル、それに、奇妙な英語をちりばめた語り口が、当時嫌われもののアメリカ人二世を思わせ、その二世が、占領軍を後ろ楯に占領下の日本人を罵倒する姿を連想させて、やがて芸人仲間をはじめ、一部の人々に反感を与えるようになっていった。

昭和三〇年七月一五日、長男の正美ちゃん（当時・六歳）が誘拐されるという事件が起きた。六日後の二一日に犯人が逮捕され、無事に事件は解決したが、犯人は動機のひとつとして「トニー谷の、社会風刺というより人を小バカにした放送に反感を持った」と語っている。しかし、家庭人としてのトニー谷は、夫人の大谷たか子さんによると、「子煩悩で、整理・整頓にうるさく、きれい好きなよきパパ」だったという。事件以降、トニー谷は芸能界から遠ざかっていった。復活したのは、三七年一一月から始まった日本テレビの「アベック歌合戦」。「あなたのお名前なんてーの」とやる司会ぶりが、一種の新鮮味を感じさせたが、かつてのあの強烈な"毒"は消えていた。

『トニー谷、ざんす』を著した作家の村松友視氏は、トニー谷についてこう語る。

「芸能界のタテ社会に、戦後の混乱に乗じて、枠の外から入りこんだ一匹狼でしょうね。同類の人を探してもちょっと見つかりません」

トニー谷が亡くなったのは、昭和六二年七月一六日。肝臓ガンだったという。

▲"誘拐事件"の前年、自宅前でたか子夫人、長男・正美、次男・克己と。 大谷たか子提供

◀昭和二八年頃、日劇ミュージックホールのトニー谷。司会のかたわら、E・H・エリック、新谷登らとのコントで客席を沸かせた。
メリー松原提供

決定的瞬間

「まるで戴冠式のようだ！」ケネディ家の野望を担ってJFKがジャッキーと結婚

リサ・ラーセン／TIME LIFE／PPS

◀ケネディは前年、下院議員6年を経て上院に初当選。着々とホワイトハウスへの歩を固めていた。一方のジャクリーンは、まだ駆け出しの新聞記者だった。

▼1931年のケネディ一家。後列左端がＪＦＫ、右端が兄のジョセフ・ジュニア。前列左端がロバート。エドワードが生まれるのは、翌年である。

REX FEATURES PPS

よく晴れた風の強い日である。この日はケネディ家にとって、アメリカ合衆国大統領という名の〝山頂〟がかいま見えた記念すべき日であった。

一九五三年九月一二日。若き上院議員ジョン・F・ケネディ（三六）とジャクリーン・リー・ブービエ（二四）とはロードアイランド州ニューポートのカトリック教会で結婚式をあげた。この模様は大々的に報道陣に公開され、また報道をするよう父親のジョセフ・P・ケネディは手を打っていた。式場では、花嫁は床まであるバラ模様のレースのベールをかぶって登場し、クッシング大司教により、アイルランド風の儀式がとり行われた。

披露宴会場には九〇〇人の関係者が招かれていて、新郎新婦は彼らと握手を終えるのに二時間もかかった。たったひとつの手違いは、ジャクリーンの父親ジャック・ブービエが前夜酒を飲みすぎて泥酔し、式に参加できなかったことである。しかし、こんなエピソードも披露宴の華やかさの陰に隠れ、参加者は「まるで戴冠式のようだった」と感激した。

ケネディ家がこのような有力な一族になるには、長い苦難の歴史があった。

一八四九年にアイルランドからボストンに移住し、樽作り職人として早世したパトリック・ケネディを初代とすると、二代目パトリック・J（通称P・J）は酒場を経営して貧困から脱出し、地元の石炭会社、アイルランド系の銀行などに投資して、ケネディ家の基礎を築いた。このP・Jの功績はもうひとつ「一番になれ。二番は敗北である」という強い意志を息子に植えつけたことだ。

ハーバード大学を卒業した三代目ジョセフは早くから商才に長け、映画産業への投資、株式売買、不動産業と手を広げ、「彼の触るものはすべて金に換わる」とまで言われた。巨万の富を築いたジョセフはルーズベルトの大統領選挙に多額の資金を投じ、見返りに駐英大使（一九三七～四〇年）の地位を獲得した。

しかし、彼は孤立主義者（英首相・チェンバレンのドイツとの宥和策を支持し、アメリカはヨーロッパの戦争に加わるべきではないという立場）とみなされ、意欲とは裏腹に、政治的には多くを得られなかった。また、貧しい移民の成り上がりものというイメージにも苦しめられていた。「この国でどれくらい暮らせばアメリカ人になれるのかね？　我々は三世代にわたってここで生きてきたんだ。もう充分だろう」と新聞記者に嘆いたこともある。

途中で挫折した三代目ジョセフの「一番になる」という野心を引き継いだのが、四代目ジョン・F・ケネディだった。

大統領になるためには、結婚は必須の条件である。美しく聡明なジャクリーンとの挙式は、ケネディ家の願いが一歩前進した記念すべき日でもあったのだ。

フルーツカクテルを食べるジョン・F・ケネディとベールの裾をなおすジャクリーンの二人の笑顔は、理想のカップルとして、七年後にはホワイトハウスに迎えられた。

美の出会い

パリからディオール旋風！新作一〇〇点を披露したファッションショーの衝撃

◀胸のふくらみと細いウエスト、ドームのように広がったスカートのカクテルドレス。チューリップ・ラインと呼ばれて流行した。

文化学園提供

昭和二八年一一月二五日午後二時、東京・丸の内にある東京会館のローズルームで、フランスのデザイナー、クリスチャン・ディオール（四八）のファッションショーが開かれた。入場料は一〇〇〇円。日本人デザイナーの相場の三倍はすると言われる値段にもかかわらず、九〇〇枚のチケットはたちまち売り切れた。

ディオール本人はあいにく病気のため来日できなかったが、パリのモデル界ナンバーワンのアラをはじめ七名のディオール専属モデルと裁断係、着付け係ら一行一二名は、前日、羽田に到着したばかりである。モデルたちは旅の疲れも見せず、ディオールの新作約一〇〇点を次々に披露していった。このショーには高松宮妃、秩父宮妃、三笠宮妃のほか、各国大使夫妻が列席。九割以上を女性が占める観客のほとんどは、固唾をのんで見入っていた。ひとつのシーンが終わるごとに、会場にはわれんばかりの拍手が沸き起こり、感嘆の声があふれた。

世界のファッション・デザインの頂点に立つディオールの一行は、文化服装学院の創立三〇周年を記念して招聘された。この企画を積極的に進めたのは、当時の学院長・遠藤政次郎（五九）である。

「遠藤は学院生をはじめ、服飾にかかわる多くの人にディオールの作品を見てもらうことによって、日本の服飾技術の質の向上と文化的な貢献ができるならと、膨大な予算を学院のボランティアとしてまかなったのです」と、現・名誉学院長の小池千枝が回想する。小池自身も実際にこのショーを見ており、その衝撃を語ってくれた。

「ディオールの作品を目のあたりにすると、造形の格調の高さに驚かされます。このショーで日本の服飾界の感覚レベルが一気に上がりましたね。また、ショーを見た人の中には、フランスへ行って学ばなければと切実に思って、実際に出かけていった人もずいぶんいました」

ディオールは、日本でのファッションショーの開催にあたり、仕度部屋の広さからアイロン、ハンガーなど用意するものについて、主催者側が驚くほどの細かい指示を出したという。

「ショーでは、学院の職員ですら舞台裏に入ることは許されませんでした。コピーが得意な日本人に技術を盗まれるのではないかと、ディオール側が警戒したのでしょう」と小池は語る。

ディオールのショーは、翌日の二六日と二九日、東京・新宿にある文化服装学院の講堂で、続いて一二月一日から六日まで名古屋、京都、大阪で開催され、いずれの地でも大盛況だった。

当時の日本の服飾界は、戦後始まった洋裁ブームに支えられ、活気に満ちていた。ミシンの普及により家庭では古着のリフォームや実用服がさかんに作られ、その一方で、服飾学校が全国各地で続々と誕生していった。文化服装学院の学生数だけでも、六一一〇名を数えるほどだった。デザインも、進駐軍とともに入ってきたアメリカ・ファッションの影響が強かったが、パリでクリスチャン・ディオールがデビューしたというニュースが伝わると、日本の服飾界もパリに関心を向けるようになった。

フランスのノルマンディー地方に生まれたディオールは、最初は建築家を志すが、後に服飾デザイナーとしてルシアン・ルロン店などで働いて腕を磨いた。戦後二年目の一九四七年、パリで布地をふんだんに使ったコロール（花冠）・ラインを発表、「ニュー・ルック」と呼ばれ、華々しいデビューを飾った。戦勝国といえども、まだ耐乏生活を余儀なくされていた当時、フランス女性のファッションも戦時中の経済性と機能性を重んじたミリタリー・ルックが主流だった。こうした時代の中で、ウエストをキュッと締めて、腰の線にそって大きく広げたスカートのデザインは、多くの女性たちに、美しく装うことの夢を与えたのである。

以後、ディオールはHライン、Aラインなど斬新なデザインを次々に発表し、世界のファッション・デザイン界を風靡していった。

◀クリスチャン・ディオール（一九〇五～一九五七）。戦後の服飾界をリードした「モードの神様」。

▲観劇に訪れたディオール・ショー一行。中央は案内役の舞踊家・伊藤道郎

文化学園提供

▲スーツの引き締まったウエストラインが斬新で、衝撃的だった。

プロポーションも美人の条件、「八頭身」がブームに
伊東絹子、ミス・ユニバース世界第3位！

◀28年9月、欧州訪問の帰途、アメリカに立ち寄った皇太子が伊東絹子と対面。伊東はユニバーサル映画と3ヵ月の契約を結び、滞米中だった。
ジャック岩田／共同通信社

ミス・ユニバース世界第三位に、日本人女性の伊東絹子が選ばれた。昭和二八年七月、世界を駆けめぐったこのニュースは、敗戦によって打ちひしがれた日本人を勇気づけた。また伊東の入賞によって巻き起こった「八頭身ブーム」は、女性美が新しい時代に入った――顔だけでなくプロポーションも――ことを象徴する一大事件でもあったのだ。

会場の日系人から「バンザイ」の歓声が

「キヌコ・イトー、ジャパン！」

ミス・ユニバース第二回世界大会決戦の会場となった、アメリカ・ロングビーチ市のオーデトリアム・コンベンション・ホールで、一人の日本人女性の名前が高らかに告げられた。昭和二八年七月一六日夜（日本時間一七日午後）、「美の国際親善」をうたった美人コンテストで、日本代表が世界第三位になった瞬間だ。世界四十数ヵ国の代表に、アメリカ四八州代表を加えたおよそ九〇人の中から入賞したのは、二一歳のファッションモデル・伊東絹子だった。

満場のどよめきの中、ひときわ響いたのは戦中・戦後を通して肩身の狭い思い

20世紀博物館
からくり記念館 石川・金沢市
江戸の技術者・大野弁吉に見る博学ともの作りの〝腕〟

桑原茂夫

▶大野弁吉作のからくり人形と彫刻作品。一番右側のからくり人形が三番叟を舞う人形で、左手前は、カニとエビの細工物。
水野直樹

昭和二八年は、評論家・大宅壮一氏によって「電化元年」と命名されたほど家電製品が普及し始めた年であり、プラスチックなどの新素材による商品が、いろいろな分野で市場を席巻していた年でもある。ひとことで言えば技術革新が際立って見えた年だ。

ここで時代を江戸時代にまでさかのぼると、その後期もまた、けっこう技術革新が進められた時代なのである。その成果を、この「からくり記念館」に展示されているものだけに限って見ても、時計、エレキテル（電気）、望遠鏡、カメラ、ピストル、ライターなどの実用品から、各種からくり人形、覗きからくり、からくり舞台などの遊びの世界にいたるまで、実に広範囲にわたっている。

▼建物全体は木造船に見立てられている。大野弁吉の支援者でもあった豪商・銭屋五兵衛の北前船を念頭において設計されたものだそうだ。

▼彫刻師としての大野弁吉も人気があったという。ここにも、超ミニチュア作品の根付やお面が展示されている。

ところで「からくり」という表現が技術革新になじまないと思われる向きもあるだろうが、江戸時代の専門書で「からくり」に「機巧」という漢字をあてている解説書があるように、動力こそゼンマイが主力だったが、「からくり」と称されるほどのものには、精巧な機械仕掛けがほどこされていたのだ。

さて、この「からくり記念館」は、金沢市の郊外、日本海に面した大野町にあるが、この地で活躍した弁吉（大野の人なので通称・大野弁吉）という江戸末期の天才的技術者を記念して、平成八年にオープンした県立博物館である。

大野弁吉は、若い頃長崎で西洋の先端技術を学び（時代的にもシーボルトの博学に接している可能性は否定できない）、やがて金沢に入り、加賀百万石の豪商・銭屋五兵衛の支援を受けるようになった。銭屋五兵衛という強力な後ろ盾を得て初めて、弁吉はその天才ぶりをあますところなく発揮できたようだ。

この「からくり記念館」に展示されているものを見るだけでも、十分その才能の片鱗をうかがうことができる。

盃を載せた車がゼンマイ仕掛けで動き、盃を取り上げると自動的に停止する、からくり盃台。やはりゼンマイ仕掛けで踊る三番叟人形、手品のような動きを見せてくれる、台つきのからくり人形、それに、バネと毛細管現象を利用して長時間の点灯を可能にした無尽灯、小さな自動噴水装置、大型の望遠鏡、携帯用日時計などのほか、当時では珍しかった写真機も展示されている。

さらに彫刻師としての弁吉の、精巧でユーモラスな作品もあって、当時の技術者が持っていた、もの作りとしての腕前の高さ、確かさのほどには驚嘆させられてしまうのである。

技術者かくあるべし！　並の人にはないすぐれた手技を持ち、大いに人を驚かせ喜ばせるべし！　そんな感慨を抱かせるミュージアムなのであった。

●からくり記念館
石川県金沢市大野町四—甲二—二九
☎〇七六二—六六—一三一一
JR金沢駅からタクシーで一五分。香林坊からバスで四五分
開館時間＝九時～一七時
休館日＝水曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料＝一般三〇〇円

▲尾張国（愛知県）で、代々からくり師として活躍してきた玉屋庄兵衛作のからくり人形。物語の進行とともに台上の様子が変わる。

ジャック岩田　共同通信社

▶ミス・ユニバース3位入賞の伊東絹子（右から二人目）。伊東は、日本の専業ファッションモデルの草分けともいえる存在だった。

をしてきた日系人たちから上がった「バンザイ」の声だった

「伊東さんの入賞は、水泳の古橋広之進の世界記録達成、ボクシングの白井義男の世界フライ級チャンピオンに続く、トップ・ニュースでした。戦後の疲弊した社会を、女性の華やかさで勇気づけてくれたのです」と、当時、日米通信社の記者だった林邦雄氏は語る。しかし、「伊東入賞」の外電を受けた時の林氏の驚きと言えば――。

「まさか入賞するとは思いませんでしたから、とにかく信じられなかった。日本がようやく栄養失調から解放されたばかりの時代でしたからね」

事実、前年の第一回世界大会にも日本代表は出場したが、下馬評にものぼらなかった。当時の学校衛生統計報告書によれば、一八歳から二四歳の日本女性の平均的な体格は、身長一五三・八センチ、体重四九・六キロ、胸囲八〇・五センチ。ルックスだけでなくスタイルも審査基準となるミス・コンテストでは、欧米人におよぶべくもなかったのだ。

これに対し、伊東のサイズは、身長一六四センチ、体重五二キロ、バスト八六センチ、ウエスト五六センチ、ヒップ九二センチ。顔の長さを一とすると、首から乳首まで、乳首からへそまで、へそから股下までがそれぞれ一で、足の長さが四という、理想的な「八頭身」だった。この伊東のプロポーションは、審査員の講評でも「欧米人に劣らない完全な体格と日本人的な顔の美しさ、優雅さ、それにチャームもあり、全世界の美人たちにとってもまったくの脅威の存在だった」と絶賛された。

高校時代は、縮れっ毛でひょろひょろと背が高かったために「日陰の菜っ葉」とあだなされていた伊東は、「八頭身美人」として、一躍、時代の寵児となったのである。

八頭身ブームの中 ひっそりと消える

伊東の登場は、「八頭身ブーム」を巻き起こし、日本女性の美人観にも、少なからぬ影響を与えた。『美人論』の著者・国際日本文化研究センターの井上章一助教授は次のように語る。

「顔だけじゃなく、肉体美も美人の基準に入れるべきだ、と日本でも一九二〇年代頃から言われ出していました。伊東さんの出現は、そういう趨勢を鮮やかに国民へ印象づけたのだと思います」

翌二九年五月には東京・有楽町の日劇前に「美人測定器」なるものが登場して話題を呼んだ。この、伊東の等身大のシルエットを切り抜いたベニヤ板の看板は、東宝と契約した伊東の主演映画「わたしの凡てを」（市川崑監督）の宣伝用だった。「美人測定器」は、「これを通り抜けられるお方は世界的美人です。自信のある方はどうぞお試しください」という うたい文句とともに全国の東宝系列の映画館に設置された。映画館によっては「みごと通り抜けられれば、招待券を進呈」としたため、連日、自称「スタイル自慢」の女性が「世界的美人」に挑んだ。

また受賞後もファッションモデルとして活躍していた伊東は、全国どこへ行っても、世界第三位の美女を一目見ようと集まった人々から猛烈な歓迎を受けた。伊東と同期で日本初のプロのファッションモデルとなった香山佳子さんは、その熱狂ぶりをこう語る。

「たしか宮崎だったと思いますが、駅を降りたらホームでお嬢さんが花束を持って出迎えてくれたんです。それから会場までは、ブラスバンドの先導で、オープンカーに乗って行進しました。とにかく、沿道の人だかりがすごかったですね。ほかにも地方に行くと、花火や垂れ幕で大歓迎されました」

戦後復興からファッションへの関心が高まり、ようやく社会的に認知されてきたモデルという職業は、「八頭身ブーム」とともに女優に次ぐスターの座に躍り出た。公務員の初任給が八七〇〇円の時代に、伊東の一日のギャラは一〇万円にもなったという。

しかし、世界大会からわずか四年後、伊東は突然モデルの仕事をやめ単身フランスに渡る。翌年、帰国すると銀座に洋裁店「伊東絹子の店」を開くが、数年でたたみ再びパリへ。そこで出会った日本大使館三等書記官と結婚し、マスコミの表舞台から姿を消した。

抜群のプロポーションで敗戦国・日本を勇気づけた「世界的美人」も、今や六五歳。現在は、京都でひっそりと暮らしている。

▲29年、東京の日劇前に出現した、伊東の等身大写真を切り抜いた「美人測定器」。 毎日新聞社

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

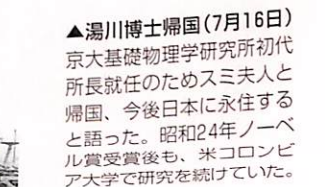
毎日新聞社

▶「メッカ」殺人事件（7月27日）東京・新橋のバーの天井から血がしたたり落ち、証券ブローカーの他殺死体が見つかった。主犯・正田昭は逃亡のすえ、10月12日京都で逮捕。遊ぶ金ほしさの犯行だった。

◀シースルーのナイロンドレス（7月）昭和26年、東洋レーヨンが生産を開始して急速に普及したナイロンだが、この頃シースルーのドレスが流行。そのため下着への関心が高まった。

影山光洋

愛媛新聞社

▲旧海軍潜水艦「伊33号」引揚げ（7月2日）昭和19年6月、瀬戸内海興居島沖で沈没して以来、9年ぶりに引揚げ。艦内から101人の白骨遺体が見つかった。

共同通信社

▲湯川博士帰国（7月16日）京大基礎物理学研究所初代所長就任のためスミ夫人と帰国、今後日本に永住すると語った。昭和24年ノーベル賞受賞後も、米コロンビア大学で研究を続けていた。

▼朝鮮戦争休戦協定調印（7月27日）北緯38度線の板門店で、国連軍と共産軍の代表による調印式が行われ、日本に大きな影響を与えた朝鮮戦争も、3年1ヵ月ぶりに終結した。

共同通信社

◀モンテンルパの日本人戦犯帰国（7月22日）フィリピン・キリノ大統領の特赦で減刑され横浜港に上陸。52人は釈放、56人の死刑囚は無期刑囚として巣鴨刑務所へ送られた。

昭和28年7月

1（水）●文部省、全国一六局で教育番組を放送開始。●国際民間航空機構、日本の加盟を承認。

2（木）●瀬戸内海興居島沖で「伊三三号」潜水艦引揚げ。

3（金）●国会図書館、米商務省の科学技術文献報告PBレポートを輸入、第一回分が到着。●仏、インドシナ三国に仏連合内での独立約束。

4（土）●総評三七単産、スト規制法反対の第一波スト。

5（日）●東海道本線の東京－名古屋間の電化が完成。

6（月）●フィリピン・モンテンルパ収容所の日本人戦犯釈放の覚書を両国交換（22日全員帰国）。

7（火）●学習院大、外遊による単位不足の皇太子の後期進学につき討議開始（進学認めず）。

8（水）●福岡銀行従組、全銀連で初めてストに突入。

9（木）●在日米軍が将兵の恋愛取締りと米軍紙。

10（金）●アッツ島遺骨引取団、海上慰霊祭を挙行。

11（土）●衆院、スト規制法案可決（8月7日公布施行）。

12（日）●韓国船、竹島に上陸をはかった海上保安庁の巡視船を銃撃（13日政府が日本領主張）。

13（月）●三島由紀夫宅に小説『禁色』で若者が堕落と、男が強盗に入る。三島は逃れ、犯人逮捕。

14（火）●米ブリストル湾に出漁した戦後初の北洋蟹工船団が音響測深機を用いて大漁と新聞に。

15（水）●旧中島飛行機系五社が富士重工業設立。●一円未満の通貨が年内で無効の法律施行。

16（木）●伊東絹子、ミス・ユニバースで三位入賞。

17（金）●尾崎行雄に「衆議院名誉議員」の称号と決定。

18（土）●和歌山県に集中豪雨。全耕地の半分が冠水。

19（日）●六月の水害で不通の関門トンネルが完全開通。

20（月）●安岡章太郎「悪い仲間」などに第二九回芥川賞。

21（火）●東京高裁、中里介山の弟が提訴した『大菩薩峠』の東映での映画化差し止め請求を却下。

22（水）●日本郵船「氷川丸」が太平洋航路に復帰、就航。

23（木）●侵略できない装備は保持可能と保安庁長官。

24（金）●列車強盗団主犯・夜烏ノ文治、大阪駅で逮捕。

25（土）●貝谷バレエ団、「くるみ割り人形」全曲を上演。

26（日）●キューバでカストロらが反バチスタ蜂起。

27（月）●朝鮮戦争休戦協定、板門店で調印。●東京・新橋のバー「メッカ」で男性の死体発見（メッカ殺人事件。10月12日、正田昭逮捕）。

28（火）●機雷漂着が続き青函連絡船の深夜運航中止。

29（水）●戦後初の東南アジアへの資本進出として大洋漁業がビルマに合弁会社設立と新聞に。

30（木）●記録フィルム「原爆と長崎」完成。

31（金）●ハンセン病患者ら、癩予防法改正に抗議行動。

証言・あの日この日

志賀直哉（70）

6月2日（火）〈ロマンス座にチャップリンの「ライムライト」を見る……却々いい映画だと思った矢張りモーラルのあるところ、又仕事が念入りになされゐる点気持よし、3時半のバスで帰る〉（『志賀直哉全集』第14巻）

熱海に暮らす70歳の志賀直哉は例日のように、バスに乗って町に映画を見に行く。4日、〈国際劇場。アメリカ映画二つとも余り面白くなかった〉。7日、〈東宝の滑稽時代ものを二つ見る　見てゐる間は面白いが後味悪し〉。12日、〈国際劇場にて「獅子の座」といふのを見る　一寸面白かった〉。映画といえば、こういう記述もある。7月18日、〈夕方小津安二郎来る。暫くゐて、「東京物語」の方言をテープレコーダーにとる為め尾道へ行った話をする。暗夜行路直哉とした碑が建ってゐるのを見て来たといふ。偽筆の碑は珍らしい〉。（坪内祐三）

Popperfoto/ユニフォト・プレス

▲イランでクーデター勃発（8月19日）国王派の軍隊がモサデク首相を追放し、ザヘディ将軍が首相に就任。パーレビ国王も亡命先から帰国した。写真は国王派のデモ。

朝日新聞社

▲8年目の広島、原爆記念日（8月6日）午前8時から戦没者慰霊祭と平和記念式典が行われ、被爆者代表ら1000人が出席。前年完成した丹下健三設計の原爆慰霊碑に納めた5万7902人の死没者名簿も公開された。

▼交通取締りに騎馬警官（8月16日）9月末までの交通取締強化期間に、警視庁交通1課が特別班を設け、東京・青山の馬場から10頭が出動、騎乗パトロールを行った。

◀NHKテレビ、初のプロ野球放送（8月23日）西宮球場から阪急－毎日戦を放送、関東主要駅前広場の220台の街頭テレビに多くの人が見入った。29日、日本テレビも後楽園球場から巨人戦（写真）を放映した。

朝日新聞社

昭和28年8月

1（土）●恩給法改正で軍人恩給復活。総額五〇〇億円。●一五年ぶり金の自由販売復活。一グラム五五五円。●公衆電話が一通話五円から一〇円に値上げ。

2（日）●北アルプスで遭難し一三日間放浪の男性保護。

3（月）●青森県関根演習場で不発弾爆発。一二人死傷。

4（火）●日航のスチュワーデス試験。競争率三九倍。●米諜報機関に拉致された作家・鹿地亘と二重スパイ・三橋正雄が衆院法務委員会で対決。

5（水）●学校教育法改正で教科書検定権が文部大臣に。

6（木）●ガス風呂つき都営アパートに応募倍率七〇倍。

7（金）●三井鉱山、六七三九人の人員整理発表（11日三池・砂川など四山で居住ぐるみ闘争開始）。

8（土）●ソ連首相、水爆の保有を発表（12日実験）。

9（日）●鎌倉由比ケ浜沖で低空飛行の海上保安庁ヘリに海水浴客がぶら下がり墜落、一三人死傷。

10（月）●日本テレビ、女性アナの採用試験を実施。

11（火）●大阪地裁の佐々木哲蔵判事、吹田事件公判での黙禱事件につき裁判官訴追委への出頭拒否。

12（水）●全駐労など、全国二〇〇基地で四八時間スト。

13（木）●NHK、全国高校野球をテレビで初実況中継。●仏で財政経済再建法反対の四〇〇万人スト。

14（金）●広島県飯室村でバスが崖下転落。五九人死傷。

15（土）●文化服装学院でファッションモデル養成所の審査会。定員一〇〇人に一五〇〇人応募。

16（日）●岡山県月の輪古墳で住民中心の発掘調査開始。

17（月）●兵器生産再開以来、特需受注額七三〇〇万ドル。

18（火）●東京では土地節約に立体墓地大流行と新聞に。

19（水）●イランでクーデター（20日モサデク政権崩壊）。

20（木）●夏の甲子園、四国同士の決勝で松山商が優勝。

21（金）●東京で三八・四度。気象台開設以来の新記録。

22（土）●児童の体格は北海道・青森が最高と学会報告。

23（日）●日本出版販売大阪営業所で、「リンチ事件」捜査の機動隊員一五〇人と労組員が乱闘。

24（月）●一日五〇〇〇俵の闇米が都内へと新聞に。

25（火）●原爆搭載用B36米軍爆撃機が横田基地に飛来。

26（水）●三洋電機、噴流式電気洗濯機を発売。

27（木）●国連軍、前年設定の朝鮮防衛水域の停止声明。

28（金）●日本テレビ放送網、本放送を開始。

29（土）●平林たい子、小説「栄誉夫人」のモデル松谷天光光に謝罪し名誉毀損係争三年目で示談。

30（日）●考える道具で新発明をさがす玉川学園の研究グループ、分析装置など紹介の教育映画収録。

31（月）●日本PTA全国協議会、宇治山田での全国大会で、批判あびた伊勢神宮神事参加を強行。

▼有楽町「スバル座」全焼(9月6日)「宇宙戦争」上映中、漏電のため客席横の壁から出火し、全焼。観客の一人が映画の原爆投下シーンのために用意したカメラで撮影。

毎日新聞社

▲「シティ・オブ・トウキョウ」到着(9月15日)日航が国際線用に米国から買い入れたDC6B型機が、国際線アメリカ航路で羽田空港に到着。11月の試験飛行を経て、定期第1便として翌年2月2日、サンフランシスコへ飛び立った。

毎日新聞社

▼米、大凶作(9月)5月以降の多雨、低温、病虫害の影響で、この年の収穫高は前年比19パーセント減。人造米が登場し、闇米騒動も。写真は青森県天間林村の実らぬ穂。

朝日新聞社

▼歌舞伎の市川海老蔵(44)結婚披露(9月29日)東京・永田町の料亭で、画家・前田青邨夫妻のきもいりで開かれ、内妻・千代子さん(36)と固めの杯を交わした。夫妻の間にはすでに二人の子どもが生まれていた。

▶仏映画「禁じられた遊び」封切(9月6日)前年世界的に大ヒットしたルネ・クレマン監督の名作が日本でも封切られた。ナルシソ・イエペスのギターの調べと、主人公たちが無邪気に遊ぶ詩情豊かな描写が感銘を与えた。

毎日新聞社

▼フルシチョフ、ソ連の党第一書記に就任(9月12日)スターリンの後継者となったが、1956年の第20回党大会でスターリン批判を展開。58年からは首相も兼任し、東西の「雪どけ」に貢献した。

昭和28年9月

1(火)●東京—名古屋—大阪で長距離即時通話開始。
●町村合併促進法公布。市制ブーム起こる。
●独占禁止法改正。不況カルテル認可など。
2(水)●歌舞伎の若手で人気一位は中村扇雀と新聞に。
3(木)●WHO西太平洋地域委員会、東京で初開催。
4(金)●法隆寺の信徒総代が御物など窃盗と判明。
●藤原歌劇団の米公演、開幕。「蝶々夫人」など。
5(土)●韓国政府、低質・高価な日本製品を復興資材として購入することに反対との声明を発表。
6(日)●ルネ・クレマン監督「禁じられた遊び」封切。
7(月)●韓国軍艦、済州島付近で日本漁船二隻を拿捕。
8(火)●無着成恭、ウィーンの世界教育会議に出席後、予定外にソ連を訪問し帰国。日教組が問題視。
9(水)●全繊同盟、総評からの脱退討議。左派は反発。
10(木)●松竹・東宝・大映・新東宝・東映、俳優・監督などの引き抜き防止五社協定に調印。
●北里研究所、血液銀行を開設。
11(金)●戦後日本で初の国際学会、国際理論物理学会議(会長・湯川秀樹)開催。
12(土)●ソ連共産党第一書記にフルシチョフと発表。
13(日)●岩手県釜石鉱山で人工地震の実験に成功。
14(月)●ILOアジア地域会議、東京で開催。
15(火)●岸恵子・佐田啓二主演「君の名は」封切。
16(水)●内灘村試射場反対運動の最後の拠点の権現森につき、政府との賃貸契約成立。
17(木)●横綱羽黒山、引退を表明。在位一三年。
18(金)●日銀政策委員、世銀の火力借款条件受け入れは四〇二〇万ドルで国を売るに等しいと批判。
19(土)●白井義男、ノンタイトル戦でKO負け。
20(日)●羽田空港で戦後初の「航空日」記念行事開催。
21(月)●日産争議、労組の譲歩で四ヵ月ぶりに解決。
●共産党、「アカハタ」で伊藤律の除名を発表。
22(火)●コバルト60による放射線癌治療器が国立東京第二病院で完成し、治療開始。
23(水)●ガット総会で米の日本加盟提案に英豪が反対。
24(木)●堤康次郎衆院議長の発案で「孝子表彰」実施。
25(金)●台風一三号、近畿・東海に上陸。三三一人死亡、浜名湖のウナギの八割が流出。
26(土)●平和憲法擁護の会、MSA受諾反対を決議。
27(日)●吉田首相・重光葵会談、自衛隊創設で一致。
28(月)●結核患者の家族に無料健康診断実施と新聞に。
29(火)●日米行政協定改訂調印。米軍人の公務外犯罪は日本に刑事裁判権(10月29日発効)。
30(水)●厚生省、人造米は栄養が半分と農林省に警告。

朝日新聞社

▲女優・田中絹代、映画監督に初挑戦(10月23日)作品は丹羽文雄原作の「恋文」。木下恵介・成瀬巳喜男両監督の協力で、撮影は順調に進んだ。

◀松川事件、冤罪の疑い(10月26日)全員有罪の地裁判決(昭和25年)に作家・広津和郎(左)らは無罪を確信し仙台高裁に「公正判決要求書」を提出。

共同通信社

▲保全経済会事件(10月24日)庶民の出資金を証券や土地に投資し配当していたが、株価暴落で休業声明。理事長は元本保証と強弁。

▶第59回伊勢神宮外宮式年遷宮祭(10月5日)20年に1度同じ社を建て直す式で、昭和24年に予定されていたが、資金難からこの年実施され、初めて御神体の遷御の儀が一般公開された。

中日新聞社

▲竹島、日本領主張(10月6日)島根県沖北西220キロの竹島の領有権を日韓両国が主張。日本が島根県の地番を示す標柱を立て、韓国が撤去する争いが続き、日本は3度目の立柱。

毎日新聞社

▶プロ野球全米オールスター来日(10月22日)オープンカーで宿舎に向かう一行を、熱狂的な群衆が取り巻いた。戦績は米の11勝1敗。

昭和28年10月

1(木)●アラン・ラッド主演「シェーン」封切。
●米韓相互防衛条約、ワシントンで調印。
2(金)●伊勢神宮内宮で第五九回式年遷宮祭挙行。
3(土)●大阪地裁、司法労組リンチ事件首謀者を懲戒。
4(日)●米軍が緑に塗った青葉城二の丸石壁などをもとの姿にと仙台市観光課が申し入れと新聞に。
5(月)●青森県車力村の父子が百万本を植林と新聞に。
6(火)●小松製作所、特需停止で二〇〇〇人解雇通告。
●海上保安庁、竹島に日本領の三度目の標柱。
7(水)●群馬県臼井町、妙義山演習地問題で住民投票。
8(木)●外務省、豪による真珠貝の漁業制限に抗議。
9(金)●日本通運、商標に㊣のマークを採用。
10(土)●世界労連大会開幕。国労など初の合法的参加。
11(日)●四国電力、吉野川水系松尾川発電所を稼動。
12(月)●山形県の帝石鉱業所で石油自噴。一日一六キロリットル。
13(火)●電力五ヵ年計画を決定。五一〇万キロワットを開発。
●日本橋のデパートで人造米発売と新聞に。
14(水)●第七次中国帰還。映画監督・内田吐夢が帰国。
●日本共産党書記長・徳田球一、北京で死去。
●藤原歌劇団、米国巡演の契約成立せずサンフランシスコで一ヵ月も立ち往生。
15(木)●韓国、日本漁船員三〇人に懲役二~三ヵ月。
16(金)●東京・丸の内に赤色の委託公衆電話設置。
17(土)●東京都と麺類業者との協議で、もり・かけは二〇円に据え置き種物だけ五円値上げと決定。
18(日)●水沢—東京間で第一回国際親善ハトレース。
19(月)●米の太平洋探検船「ベアード号」神戸入港。
20(火)●全日本広告連盟設立。理事長に藤山愛一郎。
21(水)●第三次日韓会談で久保田貫一郎が「日本の朝鮮統治は恩恵を与えた」と暴言。会談決裂。
22(木)●日米親善野球で全米オールスター来日。
23(金)●ガット、日本の準加盟国仮加入を承認。
24(土)●高利の配当をうたう匿名組合組織の金融機関「保全経済会」、突然休業し支払い停止。
25(日)●東京・淀橋署、高校生中心の恐喝団を検挙。
26(月)●広津和郎・宇野浩二・志賀直哉ら作家九人、松川事件の公正判決要求書を裁判長に提出。
27(火)●日本テレビ、白井義男の選手権試合を初中継。
28(水)●学生の選挙権を護る全国大会、東京で開催。
29(木)●総額六〇〇〇万ポンドの新日中貿易協定調印。
30(金)●シュバイツァーに前年度ノーベル平和賞授与。
●日米の防衛問題についての池田・ロバートソン会談終了(日本の防衛力漸増で合意)。
31(土)●名大医学部、初の人工心肺実験に成功と発表。

▲米で月刊「プレイボーイ」創刊(11月) 新しいタイプの男性誌をめざして発行され、マリリン・モンローの折りこみヌードで大ヒット。創刊時7万部の発行部数は最高720万部まで伸びた。

キーストン

▲仏軍、インドシナでカストール作戦(11月20日) 劣勢挽回のため空挺部隊がベトナムのディエンビエンフーに降下、要塞化に成功した。しかし、翌年5月ベトナム民主共和国軍に敗れ、7月休戦協定が成立した。

▲戦後初の園遊会(11月5日) 東京・赤坂の大宮御所で16年ぶりに開かれ、アリソン米大使ほか各国大公使、閣僚など1400人が出席した。写真は舞楽「納曽利」を鑑賞する出席者。

毎日新聞社

▲使われなかった松代大本営(11月) 本土空襲を危惧した政府が昭和19年、長野県松代の舞鶴山に移転を計画、造営した大本営が一般公開され、「サン写真新聞」11月7日号に写真が掲載された。松代地震観測所として現存。

▲フィリピン新大統領にマグサイサイ(11月10日) 75パーセント以上を得票し、現職のキリノ大統領を下した。元国防相で「比島のアイク」と呼ばれ、その率直な人柄が人気を集めていた。写真は遊説中のマグサイサイ。

▶ニクソン米副大統領と天皇(11月16日) 15日に戦後初の国賓として来日。19日の日米協会の昼食会では「日本の非武装化は誤りだった」と述べ、東西冷戦の中で日本の軍備増強に期待を表明した。写真はこの日皇居で。

昭和28年11月

1(日)●隅田川の水上生活者は一四二一世帯と新聞に。
2(月)●文部省、東北など冷害地での欠食児童増加に給食費補助、厚生省は人身売買防止策を決定。
3(火)●自衛隊は軍隊だが戦力ではないと吉田首相。
●小津安二郎監督・原節子主演「東京物語」封切。
4(水)●茨城県布川町で小貝川河口つけ換え工事の視察団に反対派町民四〇〇人が暴行・軟禁。
5(木)●徳島市でラジオ店主殺害。内妻を逮捕(徳島ラジオ商殺し事件。60年死後再審で無罪)。
6(金)●稲作予想収穫量が前年比一九%減の凶作に。
7(土)●警視庁、クラクションの乱用取締り指令。
8(日)●カンボジア国王シアヌーク、プノンペン帰還。
9(月)●六〇歳以上の八割は子どもと同居と総理府。
10(火)●亀井文夫監督の映画「基地の子たち」が反米的と映倫から修正要求、一部カットして上映。
11(水)●京都での全日本学園復興会議出席の学生と警官隊衝突。学生一〇人負傷(荒神橋事件)。
12(木)●中国紅十字会、日本人集団引揚げ終了と連絡。
13(金)●最高裁、火炎瓶は爆発物ではないと判示。
●ジャズピアニスト秋吉敏子、オスカー・ピーターソンに認められ米へ紹介のため演奏録音。
14(土)●上野駅で闇米摘発。一七二俵を押収。
15(日)●ニクソン米副大統領、戦後初の国賓で来日。
16(月)●厚生省、戦後初の寄生虫予防運動月間実施。
17(火)●東京で不正外食券で二万食詐取の三人逮捕。
18(水)●永田雅一、東南アジア映画製作者連盟会長に。
19(木)●日ソ赤十字、捕虜送還の共同コミュニケ調印。
20(金)●アラフラ海で一三年ぶり採取の真珠船団帰港。
21(土)●ラジオの賞品つき番組が一〇〇超すと新聞に。
●東大寺大仏開眼一二〇〇年記念の堂本印象作「華厳曼陀羅」が奉納され開眼供養挙行。
22(日)●三笠宮、新嘗祭研究で論文発表予定と新聞に。
23(月)●日航のアメリカ空路試験飛行一番機出発。
24(火)●東京での京舞初公開に舞子ら八〇人が上京。
25(水)●クリスチャン・ディオール、東京でファッションショー開催(ディオール旋風、起こる)。
26(木)●東日本一帯にM七・五の地震(房総沖地震)。
27(金)●三井鉱山、指名解雇を全面的に撤回。労組、「英雄なき一一三日の闘争」に勝利。
●最高裁、二俣事件(25年)の再審を決定。
28(土)●手形不渡り激増、日平均一二五九枚と新聞に。
●東京・青山に日本初のスーパー紀ノ国屋開店。
29(日)●東京で「第一回日本のうたごえ祭典」開催。
30(月)●神奈川県教組、二宮尊徳記念館募金に反対。

名瀬市提供

▲8年ぶり奄美群島返還(12月25日) 奄美大島、喜界島など5島の主権は日本政府に復帰したが、米軍施設は継続使用されることになった。写真は名瀬市の祝賀パレード。

▲テレビ初放送、第4回紅白歌合戦(12月31日) 東京・日劇から中継され、笠置シズ子、江利チエミ、灰田勝彦ら男女17組が出演。以後、大晦日の恒例行事となった。

共同通信社

▶京マチ子、国際スターの座獲得(11月) この年主演した溝口健二監督の「雨月物語」は、「羅生門」のグランプリに続き、ベネチア映画祭でサン・マルコ銀獅子賞。

毎日新聞社

▼急行「雲仙」脱線(12月16日) 福岡県の鹿児島本線海老津ー赤間駅間で、線路上に転落した米軍の作業用トラクターに乗り上げて脱線。乗客十数人が重軽傷を負った。

朝日新聞社

毎日新聞社

▲参議院議員・大山郁夫帰国(12月7日) 渡仏後、ソ連・中国・北朝鮮を歴訪。7月、早大教授時代からの平和活動が評価され、昭和26年に決まっていたスターリン国際平和賞をモスクワで受賞した。

共同通信社

▼皇居の濠に優雅な白鳥(12月26日) 皇居外苑保存協会が西独から買い入れた6羽のこぶ白鳥が、高松宮夫妻の手で濠に放たれ(写真)、祝田橋方向へ元気に泳ぎ出した。

昭和28年12月

1(火)●シベリア抑留者の引揚げが三年七ヵ月ぶりに再開。第一陣八一一人が舞鶴入港。
●初の国営有料道路、参宮有料道路が開通。
●新百円札発行。肖像は板垣退助。
2(水)●初の全日本女子学生大会開催。五六大学参加。
3(木)●政府、中国米三万トンの輸入契約に署名。
4(金)●山梨・岡山・広島・福岡・佐賀五県知事、「日本住血吸虫病有病地知事会議」を結成。
5(土)●伊東絹子、東京で帰国後初のショーに出演。
6(日)●中山競馬で史上最高五〇万七九四〇円の大穴。
7(月)●ルイ・アームストロング、来日公演開幕。
8(火)●立命館大で「わだつみ像」の除幕式挙行。
9(水)●国連、日本の国際司法裁判所への加盟を承認。
●旧三菱系四商社、合併に調印し三菱商事に。
10(木)●要保護児童数は七四万三三〇〇人と厚生省。
11(金)●葛飾区の日本製薬工場でスト。学生ら供血者五〇〇人が血を買えと工場前で座りこみ。
12(土)●京大同学会、政治的中立を守るべしとした、学生への処分反対で全学ストに突入。
13(日)●農村青年八六人、米での農業実習終え帰国。
14(月)●巣鴨刑務所で処刑されたBC級戦犯五三人の遺骨が横浜市久保山火葬場で発掘される。
15(火)●水俣市で五歳の少女が原因不明の脳障害と診断される(後に水俣病認定患者第一号)。
16(水)●全国にパチンコ店二万二五〇〇と国税庁調べ。
17(木)●冬のボーナス一、二位は製紙会社と新聞に。
18(金)●閣議、売春問題対策協議会設置を決定。
19(土)●憲法擁護国民連合準備会発足。委員長・片山哲。
●全国一三五都市の地価は前年九月以来六七%値上がり、一七年で二一九倍と勧銀調査。
20(日)●東京で山羊四〇〇〇頭密売のブローカー検挙。
21(月)●ポンド不足にIMFから買い入れと大蔵省。
22(火)●高村光太郎、芸術院会員補欠選挙当選を辞退。
●仙台高裁、松川事件で四人死刑・一三人懲役。
23(水)●和歌山刑務所で全国初の女囚美容学校開設。
24(木)●奄美群島返還の日米協定調印(25日発効)。
25(金)●行管庁、各省庁に約八万人の人員削減案内示。
26(土)●初のシネマスコープ「聖衣」封切。
27(日)●米兵による日本人投げこみ事件が続く数寄屋橋下に五〇〇ワットの照明灯六基を設置。
28(月)●新年号販売一位は「平凡」一二〇万部と新聞に。
29(火)●一等四〇〇万円の宝籤、全国で初の完売。
30(水)●フィリピン関係戦犯五二人、巣鴨を出所。
31(木)●NHK、紅白歌合戦放映(以後大晦日に)。

我楽多市

▲東京・浅草らしく、商店街の名物「ビックリ市」の街頭宣伝にストリッパーが出演。11月25日。 共同通信社

流行語

就職活動の基本テクに……

「コネ」。昭和二八年は株ブームと消費景気で世の中がにぎやかになった反面、就職の方はパッとしなかった。そこで学生たちの間でクローズアップされたのがコネ。それも大学より、中学、高校など郷里のコネの方が効果があるというので、大学生が同窓会や県人会に積極的に参加することが流行。「コネ」という言葉も定着した。

「組み立て車」。外車の部品を組み立てて作った車。この年、日野がルノー（仏）、日産がオースチン（英）など、四社が外国のメーカーと契約、技術供与を受けて発売した。これがカーマニアの憧れとなり、「組み立て車」という言葉が日常会話にも頻繁に登場した。

「サイザンス」。司会者のトニー谷の発する、英語と日本語をごちゃまぜにした話術が大流行。「トニーグリッシュ」という言葉まで生まれた。「サイザンス」もそのひとつで、「そうでございます」という意味の女性言葉だが、彼の独特の節回しでもてはやされた。

「チケット・ボーイ」。キザな英語を使うダフ屋のこと。昔流のダフ屋では恐怖を与えるというので、背広姿のダフ屋が横行した。

流行

日本中が緑に!? 葉緑素の商品の大氾濫

エチケット用品として緑の商品が大流行している。口臭、体臭、汗臭、あぶら足臭、はては便所臭まで取りのぞくというやつがそれ。キスする前用の緑の錠剤に緑の歯磨き、緑のチューインガム、あぶら足には緑の薬品をしみこませた靴の底敷き、便所の臭気には緑の液体といった次第で、今に日本全体が緑色に塗りつぶされそう。

薬品の本体はクロロフィリンという葉緑素が含んでいるマグネシウムを銅や鉄におき替えたもの。原料はウマゴヤシや蚕の糞がほとんどで、お茶を使っているメーカーもある。クロロフィリンに脱臭作用があることは以前から知られていたが、なぜかはわかっていない。そのわからない点が消費者には神秘的に感じられ、それがこのブームの人気の基本だという。

（「週刊朝日」六月七日号）

CM100年

新聞・雑誌「アサヒビールはあなたのビールです」（アサヒビール）

▲岡部冬彦のイラストと「あなたの」という呼びかけスタイルのコピーが話題に。

考現学

熱海のビールは日本一 そのうまさの秘密は?

〔静岡発〕熱海にナギサ通りというところがある。バーや喫茶店が立ち並ぶ繁華街だが、ここで飲むビールは日本一うまいという説がある。熱海通によると、その理由はこうだ。「熱海という街は東西の合流点で、東京からも関西からも客が来る。ここで評判を取れば東京や関西でも売れるというので、東のキリンビール、西のアサヒビールが蔵出しの一番うまいビールを持って来る」というわけ。

そのせいかどうか、熱海におけるビールの年間消費量はざっと一〇〇万本、日に約二七四〇本。ほかの温泉地はもちろん、大都市の消費量を大幅に超えている。

（「デカメロン」三月号）

▲清水崑の「かっぱ天国」が「週刊朝日」1月4日号から連載開始。火野葦平の小説「河童」の挿絵制作がきっかけという

交通

人力車からも徴収 有料道路の第一号

〔三重発〕一二月一日、日本最初の有料道路が開通した。三重県松阪市から宇治山田市（現・伊勢市）までの一〇・六キロで、名称は参宮有料道路。料金はバス・トレーラー二五〇円、タクシー・トラック一八〇円、馬車・人力車一〇〇円、自転車・リヤカー四〇円。

「一日平均三〇〇台、金にして五万円がとこ儲けるのが目標だが、初日こそ締めて二万二五〇〇円の収入があったものの、計画を上回った日は一日もない」

（「サンデー毎日」昭和二九年一月一〇日号）

はやり歌

君の名は

作詞 菊田一夫
作曲 古関裕而

君の名はと　たずねし人あり
その人の　名も知らず
今日砂山に　ただひとりきて
浜昼顔に　きいてみる

夜霧の街　思い出の橋よ
過ぎた日の　あの夜が
ただなんとなく　胸にしみじみ
東京恋しや　忘れられぬ

福田俊二提供

▶松竹映画の主題歌で、織井茂子が歌って大ヒット。歌詞カードの写真は映画から佐田啓二・岸恵子の数寄屋橋上の場面。

雪のふるまちを

作詞 内村直也
作曲 中田喜直

海の涯に　満月が出たよ
浜木綿の　花の香に
海女は　真珠の涙ほろほろ
夜の汽笛が　かなしいか

雪のふるまちを
雪のふるまちを
想い出だけが　通りすぎて行く
雪のふるまちを
遠いくにから　落ちてくる
この想い出を
この想い出を
いつの日か包まん
あたたかき幸せのほほえみ

雪のふるまちを
雪のふるまちを
あしおとだけが　追いかけてゆく
雪のふるまちを
ひとり心に満ちてくる
この哀しみを
この哀しみを
いつの日かほぐさん
緑なす春の日のそよ風

雪のふるまちを
雪のふるまちを
息吹とともに　こみあげてくる
雪のふるまちを
誰もわからぬ　わが心
このむなしさを
このむなしさを
いつの日か祈らん
新しき光ふる鐘の音

キングレコード提供

▲NHKラジオドラマの挿入歌で、この年〝ラジオ歌謡〟に取り上げられヒットした。シャンソン歌手・高英男の歌。

▶「ぼんぼん」とも呼ばれたひょうたん形のアイスキャンデー。東京では豆腐屋の副業が多かった。

三面記事

大井競馬場で競馬の革新

昭和二八年三月九日、東京・大井競馬場で行われたレースは競馬史上初めて、各馬が横一線でスタートしたレースだった。この日初めてスターティング・ゲートが使用されたからである。その頃は細い麻縄を横に張り、ゴム仕掛けでハネ上げるのが最高のやり方で、ゴムひもや紙テープを用いている競馬場も珍しくなかった。このため競馬のトラブルの九九・九％がスタートに関するもので、怒ったファンがスタート台を押し倒し、スターターが重傷を負うというケースもしばしばあった。この装置を作ったのは宮地幸吉という人で、アメリカの写真を手がかりに二年がかりで製作、これによってスタートをめぐるトラブルは一掃された。ちなみに中央競馬がこのゲートを採用したのは、それから一〇年近く後のことだった。

（「週刊文春」昭和五〇年一一月六日号）

名糖産業

▲6月、名糖産業が発売した粉末オレンジジュース。昭和30年代なかばに爆発的ブーム。

データ

炭鉱主が独占 金持ちベストテン

昭和二七年度の儲け頭ベストテンが発表された。それによると一億円以上が六人、五〇〇〇万円以上が一二人。業種別では炭鉱の持ち主がベストテン中九人を占めた（金額は一万円で四捨五入）。

①古谷博美（山口・炭鉱）三億一五八七万円、②上田清次郎（福岡・炭鉱）一億七一〇七万円、③広瀬安次（大阪・炭鉱）一億五三〇〇万円、④白川敏夫（広島・炭鉱）一億八四七万円、⑤上田富蔵（福岡・炭鉱）一億二九万円、⑥上田米蔵（福岡・炭鉱）一億一四万円、⑦西田隆男（福岡・炭鉱）九九三二万円、⑧武内徳夫（福岡・炭鉱）八七六八万円、⑨堀久作（東京・日活社長）八六二八万円、⑩野見山清蔵（福岡・炭鉱）八五二二万円。

（「朝日新聞」四月二日）

性教育

精子はつばとともに 中三の性知識

横浜市の教育家・岡田寅次が中学生の性意識に関する調査を行い、その結果を『思春期の性意識』という本にまとめた。中学生に関する、これほど大がかりな調査は初めて。岡田によると性交や自慰などについて、正しい（まあまあも含めて）知識を持っている子は、項目や男女による違いはあるが、大体半数くらい。しかも誤解の仕方にも一定のパターンがある。たとえば「精子はどこから入るか」という問いに、中三の女子からはこんな答えが寄せられた。

「男性と話している時、男性のつばから」「男性が食べ残した食事を女性が食べると、ごはんにまじった血液から」。これを見ても口と性器の役割が判然としていないことがわかるという。

（岡田・同書）

▲東大「学生アルバイト」委員会の掲示板。会計、経理などの事務で1日250円、交通費支給。

この年の初もの

無線タクシー 札幌でお目見え

●**騒音防止条例**　横浜市が八月に制定。

●**水上スキー**　八月、箱根芦ノ湖でわが国初公開。

●**アメリカ式知能テスト**　日本女子大の児玉省教授が紹介。以後、全国に急速に普及した。

●**舞踊喫茶**　日本舞踊の名取りなどが踊る喫茶店で、神戸の福原に登場。翌年、神戸だけで十数軒。

共同通信社

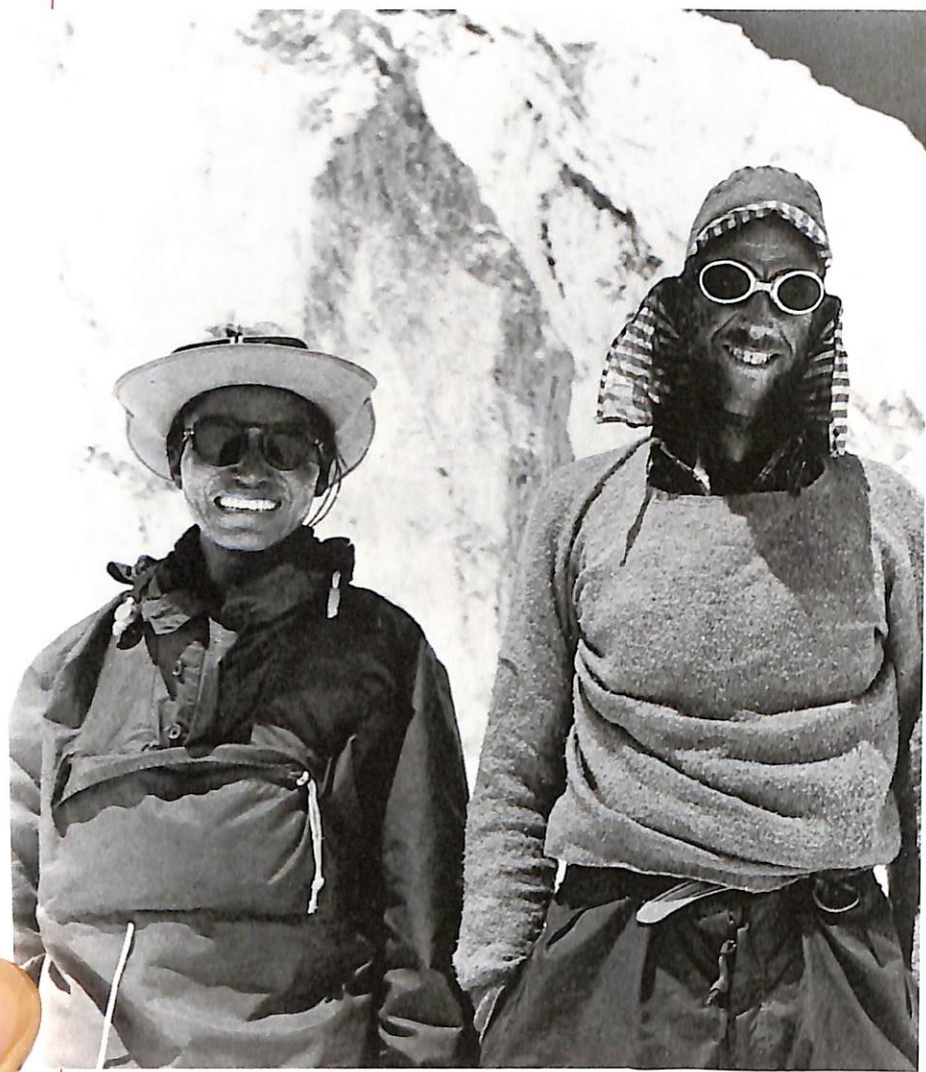
▶六月八日、腹式呼吸や音楽を用いたソ連式無痛分娩に富永和重さんが東京・日赤産院で初成功。

一九五三年五月二九日、北極、南極とともに「第三の極地」と呼ばれた世界最高峰のエベレスト（八八四八㍍）が、ついにジョン・ハントを隊長とするイギリス登山隊によって征服された。一九二一年以来、一三回目の挑戦にして勝ち得た人類初の大偉業であった。

最終キャンプから五時間 ついにエベレスト山頂に立つ

「私がこの〝初登頂〟という快挙を知ったのは、ヒマラヤに登りたくて早稲田大学の山岳部に入ってまもなくのことでした。自分にとってもエベレストは憧れでしたし、かならず登ってやると決めていただけに、先を越され本当に残念でした。しかし初登頂に成功した二人は、精神的、肉体的にもずば抜けたものを持っていたことを思うと、驚きと感動がこみあげてきました」

こう語るのは、その一七年後の一九七〇年五月一一日、今は亡き冒険家の植村直己とともに、日本人として初めてエベレストの登頂に成功、現在は鹿児島県の屋久島で洋蘭の栽培業を営む松浦輝夫氏である。

一九五三年五月二九日午前一一時三〇分、前人未踏の頂点に立ったのは、ニュージーランド人で養蜂家のエドモンド・ヒラリー（三三）と、ヒマラヤの山腹で生まれ育ち、「雪の虎」の異名を持つシェルパ（高地の荷役をする人）のテンジン・ノルゲイ（三九）の二人であった。

▲ヒラリー（右）とテンジン。登頂の翌日、第4キャンプで。 CORBIS･BETTMANN／PPS

この日、第九キャンプ（八五〇四㍍地点）で一夜をあかした二人が頂上をめざしたのは午前六時三〇分。「すでに山頂は陽光を浴び、暖かそうに見え、まるで手招きしているよう」（『わがエベレスト』ヒラリー著、筑摩書房）であった。

肩に酸素補給器を担い、管を吸入マスクに接続し、一三・五キロの荷を背負って出発した二人は、朝日に輝く雪上にステップを切り、一歩一歩慎重に進んでいった。

ほぼ垂直の岩壁をよじ登り、次々に現れるこぶや今にも崩れそうな雪庇（斜面に張り出している雪の塊）を通り抜け、山頂へと続く尾根にたどり着いたのは午前九時であった。

それから約二時間半、ボンベに残る酸素を点検し、ピッケルを突き刺して足場を確かめながら登り続け、とりわけ大きなこぶを乗り越えた時、二人の眼下には突然ヒマラヤの雄大な山々が姿を現した。そこは雪庇ではなく、丸みを帯びたエベレストの頂であった。

キャンプを出発して五時間後、ついに世界の最高峰を征服した二人は、無言のまま感動の握手を交わし、互いに背中をたたき合って喜びを分かち合った。そしてテンジンは、ピッケルに結びつけたネパール、インド、イギリス、国連の旗を大空に掲げた後、ビスケットや菓子などを捧げものとして雪に埋め、ヒラリーはハント隊長から託された十字架を安置したのである。頂上での滞在時間は一五分間であった。

戴冠式を目前にして女王へ最大の贈り物

人類が初めてエベレストの征服をめざしたのは一九二一年、イギリスのハワード・バリー大佐を隊長とする遠征隊であった。その後、八回の遠征隊が山頂に挑んだが、いずれも悪天候などのため、失敗。一九五二年には、イギリス隊に代わりスイス隊が登頂に挑戦した。それはこれまでのチベット側からの北方ルートではなく、ネパール側からの南ルートによる攻撃で、八六〇〇㍍の最高記録を打ち立てる。そして翌年の一九五三年、一三回目の企てが、イギリス地学協会と山岳会により、エリザベス女王戴冠のこの年に行われたのである。

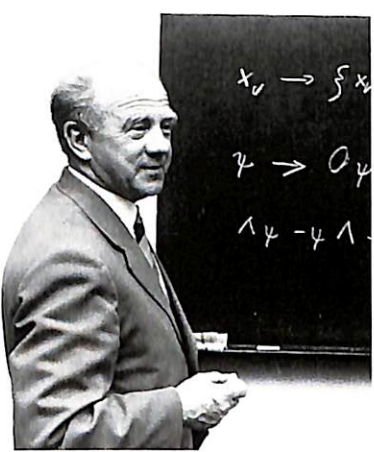
前年、スイス隊に加わり、登山ルートを熟知していたテンジンの参加は大きな力となっていたが、同時に酸素補給などの精密な科学的研究と周到な準備が整えられた。

1953年イギリス登山隊のエベレスト登頂ルート

※2～9は、キャンプ地

外から見たNIPPON

物理学者ハイゼンベルクが指摘した日・独それぞれの"戦後"

佐伯　修

▶量子力学を創始。一九三二年ノーベル物理学賞。

「若い世代の人達のことについて申しますと、我が国では第一次世界大戦のあとと今回とで大変なちがいがあるように見えます。第一次世界大戦のあとでは、ドイツの若い人達は活発であり、ある意味において楽観的であり、短期間の間によい状態を建設できると思っておりました。その楽観は民衆の間に革命が起るであろうという考えとも一脈通じるところがありました。この点については、日本の現在の状況は、ドイツの現在の状況よりもむしろ前大戦のあとの状況に似ているのではありますまいか」（「朝日新聞」四月一〇日）

アインシュタイン、ボーア、シュレーディンガーら、先輩学者たちとともに、「物理学の英雄時代」（湯川秀樹）である二〇世紀前半の理論物理学の旗手だった、ドイツのウェルナー・ハイゼンベルク（一九〇一～一九七六）は、この年、日本人の教え子の一人、藤岡由夫との往復書簡の中で右のように述べている。ハイゼンベルクは、この秋、国際理論物理学会出席のため、来日を控えており、湯川や朝永振一郎ら、教え子たちの活躍にも満足気である。

しかし、藤岡とハイゼンベルク、両者の書簡を読むと、同じ敗戦国でありながら、当時の日独の科学研究をとりまく状況は、大いに異なっていたことがわかる。

まず、藤岡は、日本の大学や研究機関が、戦前とは比較にならないほど少ない研究費しか、国から支給されなくなったと語り、学生の生活も、経済や住居の点で困窮していることを訴えている。それに対し、ドイツでは、国土が東西に分断されながらも、少なくとも西ドイツに関しては、ハイゼンベルクが研究所長をつとめる、マックス・プランク研究所などの研究機関が、国家によって再建、新設されつつあった。

また、藤岡が、日本では極左化した「一部学生」の政治的煽動により、「相当数の学生が引きずられる事もある」と弱りきっているのに対し、ハイゼンベルクは、前の引用部分の後に続けて言う。

「今次の大戦のあとでは、ドイツの若い世代の人達は悲観的であり、活発ではありません。これは彼らの受けた経験から来る当然の帰結でありましょう」

しかし、それゆえ「彼ら」は、「革命」よりも「堅実な進歩と刻苦勉励」を志向している、とハイゼンベルクは肯定的に語る。なお、ハイゼンベルク自身は、ナチス政権下で核研究にたずさわったが、一九五〇年代の西ドイツ核武装計画には強硬に反対した。

三月一〇日、ネパールの首都カトマンズを四〇〇人の大部隊が出発、エベレストの山麓に向け大行進が始まった。一行は、テントやスリーピング・バッグ、無線機、酸素ボンベ、飲食物などを、チャンボチエの臨時ベース・キャンプに黙々と運び上げた。そこでは酸素補給などの装備を総点検するとともに、十分な体力作りが行われた。

いよいよ山頂をめざし、高度を上げながらキャンプを設営する作業が始まった。第一キャンプが張られたのはクーンブ河の上。その後、第二から第八キャンプが設けられていったが、それは苦難の連続であった。行く手をさえぎる氷河の裂け目には梯子を架け、登頂ルートをさがし続けた。しかも、希薄な酸素は極度に体力を消耗させる。まさに「胸をナイフで切り裂いて空気を取り入れたい」（松浦氏）という衝動にかられたに違いない。

そして、第八キャンプからの第一次山頂アタックが失敗した後、ヒラリーとテンジンは五月二八日に第九キャンプの設営に成功、摂氏零下二七度という厳寒の中、翌日の登頂に備えたのであった。

エベレスト征服のニュースを受けたエリザベス女王は、すぐさま遠征隊に祝電を打つよう指示した。この偉業は、四日後の女王の戴冠式に向けたこのうえない贈り物となったのである。

エドモンド・ヒラリー（1919～　）
ニュージーランドの登山家、養蜂家。一九五三年のエベレスト初登頂で、サーの称号を授与される。一九六三年、ネパールで学校建設に従事、後に駐インド高等弁務官、ネパール大使などをつとめる。

テンジン・ノルゲイ（1914～1986）
ネパール生まれ、インド国籍のシェルパ、登山家。一九三五年以来、多くのヒマラヤ登山隊にシェルパ頭として参加。エベレスト初登頂後、インド国立登山学校の初代校長をつとめる。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲クレバスが続く難所、アイス・フォールを行くイギリス隊。

往きて還らぬ

毎日新聞社

▲11月9日　イブン・サウード（73）
1932年サウジアラビアの初代国王に就任。1940年油田開発に成功。その豊かな財源で遊牧民の定住をはかった。

▲9月7日　阿部信行（77）
軍人、政治家。昭和8年陸軍大将。14年8月首相兼外相に就任。組閣直後に欧州で第2次大戦が勃発、15年総辞職。

▲3月12日　伊東静雄（46）
詩人。昭和10年の処女詩集『わがひとに与ふる哀歌』で熱烈なファンを獲得し、17年『夏花』で北村透谷賞受賞。

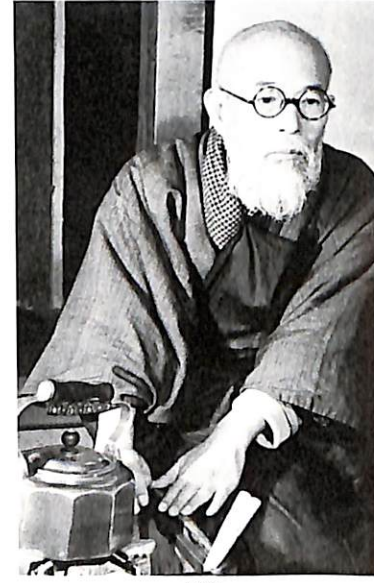
共同通信社

▲2月25日　2代目桂春団治（58）
落語家。昭和9年2代目襲名。にぎやかで派手な芸風で知られた。病気全快興行の楽日に倒れ、1ヵ月後死亡。

▲11月27日　ユージン・オニール（65）
米の代表的劇作家で、1920年『地平線のかなた』など3作品でピュリッツァー賞、1936年ノーベル文学賞受賞。

▲5月28日　堀辰雄（48）
小説家。昭和5年『聖家族』を発表、人気作家となる。結核で長い闘病生活を送った。ほかに『風立ちぬ』など。写真は多恵子夫人と。

◀11月29日　ガントレット恒（80）
作曲家・山田耕筰の姉。キリスト教教育者で、東京女子大などで教鞭をとる。婦人矯風会会頭など婦人問題に尽力。

▲7月7日　阪東妻三郎（51）
「無法松の一生」の名演で知られる映画スター。代表作に「雄呂血」「破れ太鼓」など。田村高廣、正和、亮3兄弟の父。

▲2月25日　斎藤茂吉（70）
歌人。アララギ派の重鎮で、元青山脳病院院長。昭和26年文化勲章受章。歌集『赤光』など。作家の北杜夫は次男。

毎日新聞社

▲12月22日　加藤道夫（35）
劇作家。昭和19年処女戯曲「なよたけ」で認められ、21年女優・加藤治子と結婚。戦後演劇の旗手と期待されたが、自殺。

共同通信社

▲9月13日　布施辰治（72）
弁護士。明治37年開業、米騒動などの弁護で活躍。大正10年自由法曹団結成。戦後は三鷹・松川事件などを弁護。

▲9月3日　折口信夫（66）
民俗学者、歌人。柳田國男に私淑し、民俗学に新分野を開いた。著書『古代研究』、歌集『海やまのあひだ』など。

▲3月5日　S・プロコフィエフ（61）
ロシアの作曲家、ピアニスト。ロマン的作風で知られる。代表作「ロメオとジュリエット」「ピーターと狼」など。

ミニ事典

1953年のキーワード

横綱審議委員会
昭和二五年に発足した相撲協会の下部機関。略称・横審。各方面の識者で構成。横綱は相撲協会からの推薦を受けて横審が審議、満場一致で決定される。鏡里が第四二代横綱になった際、番付編成会議がみずからの決定をごり押ししたため、この年一月二七日、それまでの諮問機関から決定機関になった。

日本婦人団体連合会
全国地域婦人団体連絡協議会(地婦連)、婦人民主クラブ、女子勤労連盟など三十余団体が、四月五日、反戦を旗印に結成した超党派の婦人団体。会長は平塚らいてう、副会長・高良とみ、評議員に野上弥生子、石垣綾子、壺井栄ら。民主的政府の樹立を呼びかける声明を発表した。

佐久間ダム
静岡県・愛知県の県境の天竜川にある日本最大規模の重力式ダム。戦後の復興と経済再建をかけた国土総合開発のシンボルと言われ、四月一六日、着工。電源開発株式会社社長の高碕達之助の発案でアメリカの最新鋭の機械と技術を導入、予定どおり三年の工期で仕上げた。この工事が後の技術革新、高度成長に与えた影響は大きかった。

▲高さ150メートルの堰堤がほぼ完成。総工費360億円。

ドミノ理論
ダレス米国務長官が五月七日に発表した、インドシナの共産化が全アジアの共産化を引き起こすという理論。この理論に基づいてアメリカはインドシナ戦争遂行中のフランスに六〇〇〇万ドルを供与。翌年フランス敗退後もラオス、カンボジア、南ベトナムを参加させて反共軍事同盟SEATO(東南アジア条約機構)を誕生させるなど、後のベトナム戦争介入にいたる下地となった。

円平価
日本とIMF(国際通貨基金)との間で決められる円と金、円とドルの交換比率。五月一一日に一円が金二・四六八五三ミリグラム、一米ドルが三六〇円と決定、日本もようやく円による外貨買い入れができるようになった。昭和四六年には変動相場制となった。

コロネーション・カラー
六月二日に行われた英国女王エリザベス二世の戴冠式で女王が身につけたという衣装の色。コロネーションとは戴冠式の意味。ファッション業界に大きな影響を与え、即位を意味するとされる藤色、ベージュなど高貴な色七色が流行した。

スト規制法
正式には電気事業および石炭鉱業における争議行為の方法の規制に関する法律。社会党、総評傘下組合などの必死の反対闘争も実らず、八月七日、公布・施行された。前年秋、電産と炭労が労働条件改善を要求して大規模なストを行い、国民生活に大きな影響を与えたため、基幹産業の復興・発展をめざす政府・財界は、この法律の制定を急いでいた。

共同通信社

▲スト規制法公布の日、三井鉱山で人員整理案が出され全面撤回を求める闘争が始まる。

町村合併促進法
地方自治の確立をめざしたシャウプ勧告にしたがって進められた行政事務再配分の実現をはかる法律。九月一日公布。人口八〇〇〇人をめどに小町村の合併を強く要請。三ヵ年の時限立法だったため昭和三一年九月三〇日失効したが、法施行当時の九六一〇町村が、合併により三四七五町村に減少、逆に市の数は倍増した。その精神は三一年六月公布の新市町村建設促進法に受け継がれた。

徳島ラジオ商殺し事件
昭和二八年一一月五日、国鉄徳島駅前のラジオ商が匕首で殺害された事件。冤罪のひとつ。翌年、住みこみ店員の二少年の証言により内縁の妻・富士茂子が逮捕されたが、一貫して無実を主張、服役・出所後、支援者とともに再審請求を申し立てた。二少年は取り調べがつらくて偽証したことを告白、昭和五八年、再審開始、六〇年に無罪判決が下った。その六年前に茂子は死亡しており、史上初の死後再審だった。

寄生虫予防運動
厚生省が一一月一六日に戦後初の寄生虫予防運動月間を実施。全国各地で巡回検診・街頭検診を行った。寄生虫保有率は東京で全住民の三割、農村で八~九割とまで言われており、立ち遅れていた予防・駆除対策がようやく本格化した。

「うたごえ運動」
ソプラノ歌手の関鑑子の指導で、昭和二三年に創立された「中央合唱団」を中心とする「うたごえ」によるサークル活動。労働組合や学生組織などに浸透、都会には「うたごえ喫茶」や「うたごえ酒場」も登場し「黒い瞳」や「カチューシャ」などロシア民謡に人気が集まった。この年一一月二九、三〇日の両日には、六〇〇〇人が参加して東京・日比谷公会堂と共立講堂で「第一回日本のうたごえ祭典」を開催、翌年には「原爆許すまじ」の歌を全国に広めた。

うたごえ新聞社

▶「うたごえは平和の力」をスローガンに第一回日本のうたごえ祭典、開催。

シネマスコープ
映写画面を拡大することで立体感を高めようとする、縦一に対して横二・五五の比率のワイドスクリーン方式。日本では「シネスコ」と呼んだ。アメリカの二十世紀フォックス社が、テレビの普及に対抗するために開発、その第一回作品「聖衣」は日本では一二月二六日、東京の有楽座で封切られた。日本映画も昭和三二年の東映作品「鳳城の花嫁」以来、シネスコを多用するようになった。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1953

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
岩井かずみ ジャック岩田 大谷たか子 影山光洋 影山智洋 木村盛綱 但馬一憲 エドモンド・ヒラリー 福田俊一 松原茂 水の江滝子 水野直樹 向井徹 メリー松原 百田義浩 リサ・ラーセン 渡部雄吉
朝日新聞社 うたごえ新聞社 NHK 愛媛新聞社 沖縄タイムス キーストン 共同通信社 CORBIS・BETTMANN TIME LIFE 中日新聞社 那覇出版社 日刊スポーツ PPS 文藝春秋 北海道新聞社 Popperfoto 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 REX FEATURES WWP 川崎製鉄 キングレコード 松竹 大映 日産自動車 日本水産 マルベル堂 名糖産業 アメリカ国立公文書館 医学写真研究所 沖縄県公文書館 通信総合博物館 名瀬市 日本玩具資料館 日本近代文学館 文化学園

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1953
●“テレビと力道山”時代始まる！ 11月25日号
第1巻第38号 通巻38号 平成9年11月25日発行（毎週火曜日発行）
編集人 近藤達士 発行人 丸本進一 発行所 株式会社 発売所 講談社 郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21 (編集)03・3944・1295 (販売)03・5395・3604
定価560円 本体533円

雑誌 23704 11/25 T1123704110567
Ⓛ 2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社